聖ホセマリアの手紙6番(オプス・デイへ の召命の主な特徴に ついて)

オプス・デイへの召命の特徴 と、教会に奉仕する福音宣 の使命について。また、 Sincerus est [誠実である] というラテン語の冒頭いる にもって名付けられてもの日付 が記され、1966年11月22日 が記されているが、すでいた 1963年2月に印刷されている。 2024/11/27

ホセマリア・エスクリバー・デ・バ ラゲル

手紙6番(1940年3月11日)

(『書簡集Ⅱ』に収録)

ルイス・カノ編

目 次

この版について

この手紙の主なテーマ

手紙

キリストに協力することへの呼びかけ

- ・犠牲における喜び
- ・神との親子関係
- ・この世のただ中で世の光となる
- ・仲介者キリストとの一致
- ・<u>世俗生活の現実であり、聖性の手</u>段である仕事
- この世のただ中にあって観想的であること
 - ・神への希望と信頼:喜び
 - ・この世において聖性を求める
- ・聖性への召命はすべての人のためのもの
 - ・光の源である愛
 - 聖霊の働き
 - ・魂の渇き

- オプス・デイへの召命はすべての 信者に向けられている
 - ・神の呼びかけに応える自由
- ・<u>わたしたちの使徒職は偉大なカテ</u> ケージス
- ・キリスト教の光
- ・自然さと、個人としてまた集団としての謙遜
 - ・平和と一致を促進する
- わたしたちの精神はすべての人を 尊重するよう促す
 - ・友情は信頼の雰囲気を生み出す
- ・<u>オプス・デイの生き方から法的な</u> 道が生まれる

聖書からの引用はフランシスコ会聖書研究所訳注『聖書』(2015年版)を使用しました。ただし、文脈に応じて訳文を調整したところ、あるいは原典で引用されているテキストに準じて訳しなおしたところがあります。

本文中イタリックで記されている箇所は太字で表しています。ただし、それが聖書などからの引用である場合、また文脈から考えて適当とみなした場合には、太字にせず、「」(カギカッコ)でくくりました。

なお、本文中のラテン語テキストは そのままにし、訳を[]内に入れて 付け加えました。

この版について

この版に収められているのは、聖ホ セマリアの一通の手紙(1940年3月 11日の日付が記されている)で、そ こではオプス・デイの召命と使命の さまざまな面について、とくにオプ ス・デイの世俗性について詳しく述 べられている。手紙の目的は、彼が 説く精神に特有のものはなにか、そ してそれが福音に根ざしたものであ ること、また初代キリスト者の生活 に似たものであることを示しなが ら、その帰結として、教会における 他の召命や道とは異なっていること を明らかにしている。何よりも彼 は、オプス・デイにおける召命の世 俗性を強調しつつ、あるところでは キリスト者としての召命のさまざま な形態と共通する特徴について語り ながら、またあるところでは彼が創 立したオプス・デイにおいて、独自 の特徴がどのように生きられるのか を述べている。

この手紙は、2021年にRIALP出版から刊行された『書簡集II』の中に「手紙6番」として収録されている。聖ホセマリアはこれらの手紙に題名をつけなかった。この版の題名は、校訂版の編者がつけたものである。

この手紙は、聖ホセマリア独特の文学ジャンルのひとつをなしている。 これは論文ではない。その文体はメイプス・デイのすべての時代の語りがである。 オプス・デイのすべての時代の語りいたちを相手にした親し、オプスのはないがである。 がイのメンバーたちとの団をとき、オプス・デイの精神や歴史を 統についものである。

この手紙の主なテーマ

この手紙は、オプス・デイの精神のさまざまな面を取り上げているが、創立者はその精神を十全に生きるように勧めながら、それを真に単純に示そうとしている。ラテン語の冒頭句"Sincerus est" [誠実である] という言葉はそこに由来する。

いくつかの手紙にもあるように、聖ホセマリアは、厳密な枠組みに従って論を展開するのではなく、あるテーマから別のテーマへと移ったり、ときにはすでに取り上げたことに戻したりして、この巻の別のある手紙で説明しているように、「一見無秩序」に話を進めている。

しかしながら、一貫した流れがある。手紙の目的は、彼が説くオプス・デイの精神に特有のものはなにか、そしてそれが福音に根ざしたものであること、また初代キリスト者の生活に似たものであることを示しながら、その帰結として、教会にお

ける他の召命や道とは異なっている ことを明らかにしている。何召召のは、オプス・デイにおけるここを 世俗性を強調しての召命のので はキリスト者としての召命のいは はキリストを強する特徴についな まながら、またあるとこおい 創立したオプス・デイにお 自の特徴がどのように生きられる かを述べている。

たとえば、自分は神の子であると自 覚することは、すべてのキリスト者 にとって本質的なことであるとして も、聖ホセマリアはそのことをさら に強調し、オプス・デイにおける霊 的生活の基盤であると指摘する

(2a)。オプス・デイの使命は教会の使命とは同じであるとも言えるだろう。なぜならそれは、キリストにおいて世界を立て直し(2c)、神の光で人々を照らすことであるから

(3b-3c)。しかし、オプス・デイの場合、この使命は、とくに世俗で

の仕事に専念することによって遂行される(9a-9b)。オプス・デイのメンバーは、他の普通のキリスト信者との違いを示すことなく

(9a-10c)、人間の活動の頂点にキリストを置くことを熱望しつつ (12a-12c)、仕事に特別な注意を 払い、仕事を聖化の手段とし

(13a-13c)、友情と理解の雰囲気の内に、個人対個人の使徒職を実践するのである(14a-14b, 54a-55c, 64a-69b, 70a-72b)。こうしたことすべては、「生活の一致」

(14c-16b) — 首尾一貫性 — へと向かう観想生活によって支えられ、独特の自由な精神によって味付けられるのである(37c)。

聖ホセマリアは、さまざまなところで、オプス・デイが歩む道で出会う矛盾や困難について、また、彼が単純で透明な精神と捉えていることを理解しなかった人々について、語っている(17c-20d, 43a-45b)。とく

に、秘密主義という非難を退けている(56a-60b)。

彼の説明の背景には、キリストとの一体化という展望と(11a-11d)、福音を全人類にもたらすようにとの呼びかけが見て取れる。彼にとって、この福音宣教の任務は、理解するた友情を通じて実現され、好意として大力れる寛容を実践することすべてので受け入れる寛容を実践することすべては、よき模範を示しながらに受け入れるよう配慮しながらキリストれるよう配慮しながらキリスト

聖ホセマリアがオプス・デイにおいて特に重要視している他の美徳や特徴としては、謙遜(4a-4c)、基本的なことにおける一致と意見の多様性(27a-27d)、清貧

教の教えを説くこと(47a-48c)に

よって行われるのである。

(28a-28b)、喜びと神への感謝 (29a-29c)、そして誠実さ (61a-61c)が挙げられる。また、 彼が説く精神を、その特異性を適切 に反映する法的形式に適合させる必 要性についても言及している (73a-75c)。

手紙6番

1 オプス・デイの精神は単純かつ率 直で、真正のものです。それは聖書 に基づいています。そして聖書は、 神からの霊感を受けて書かれた書物 一限りなく単純な方であり、ご自分 のことを真の神団であり、真実な方 図、真理そのもの図であると語られる 神からの霊感を受けて書かれた書物 なのです。

今日わたしは、わたしたちの明快か つ誠実な精神についていくつかの点 を指摘し、その特徴について述べたいと思います。わたしの子どもたち、主はわたしの内に、あなたたちに語りかけたいという熱い望みをやえ上がらせ、使徒パウロがガラテたに感じさせてくださるのですったはさせてくださるのですがあるまで、すりにあるよ、キリストがあるまで、カたしの子らよ、キリストがあなってがわたしは産みの苦しみを味わって

たたちの内に形づくられるまで、再びわたしは産みの苦しみを味わっているのです] [4]。わたしの子どもたち、キリストがあなたたちの内に形づくられるまで、再びわたしは産みの苦しみを味わっているのです。

わたしがあなたたちに書いていることすべてを黙想し、忠実に生きなさい。そうすれば、初代キリスト者たちについて言われたことが、あなたたちについても言われるようになるでしょう。「彼らはみな、自分たちのなすべきことを本当に学んだ。彼

らはそれを学んだだけでなく、全身全霊を傾けてそれを実践した。町や広場だけでなく、山の頂上でさえも、至るところで」 「「」 そう、至ることろで。

2 オプス・デイの精神は、わたした ちが神の子であることを深く感じさ せます — carissimi. nunc filii Dei sumus「愛する者たち、わたしたち は今すでに神の子なのです)。愛 する子どもたち、わたしたちは今や 神の子なのです。この幸いなる真理 は、わたしたちの霊的生活全体の基 礎であり、わたしたちの内的な闘い と使徒的な活動を希望で満たし、わ たしたちに、子どものように信頼に 満ちた素朴さで、父である神を知 り、付き合い、愛することを教えて くれるのです。さらに、わたしたち が神の子であるからこそ、この現実 は、創造主である父なる神の御手か ら生まれたすべてのものを、愛と称 替をもって観想させるのです。

わたしの子どもたち、世界は、主が造られたものすべては善いものです。聖書は教えています、神が天地創造の驚くべきわざを完成されたとき、すなわち天と地と万物を完成されたとき「バ」、「神はお造りになったすべてのものを御覧になった。それは極めて善かった」「図と。

アダムの罪がこの神の創造の調和を 壊しました。しかし、時が満ちる と、父なる神は御独り子をこの世に 送り、平和を回復させたのです。人 を罪から贖い、adoptionem filiorum reciperemus「わたしたちが子とし ての身分を受け) 🖪 ― わたしたちが 神の子としての身分を受け、神との 親しい交わりに与ることができるよ うにしてくださいました。そしてこ の新しい人、神の子という新しい枝 mmによって、全被造物を無秩序から 解放し、キリストの内に万物を回復 させ皿、キリストによって神と和解 させたのです「12]。

キリストに協力することへの呼びか け

わたしの子どもたち、わたしたちは そのために呼ばれたのです。それが わたしたちの使徒職、独自の霊性と 修徳精神を支えとし、キリストとそ の教会の唯一の使命に見事に組み入 れられた使徒職であるべきなので す。

主はわたしたちに、神に愛された子として、神に倣うようにと呼びかけておられます — estote ergo imitatores Dei, sicut filii carissimi [ですから、愛された子として愛された子として愛された子として、神に倣う者として、神に倣う者として、熱意を込めて、さい、謙遜に、熱意を込めて、神のを扱い、・で言いたものを教え、をう間がかき乱したものを整え、そうものをその目的地へと導き、そう

やって全被造物を神との一致へと回 復させるのです。

3 聖ヨハネにならって、あなたたち に繰り返し言います — videte qualem caritatem dedit nobis Pater, ut filii Dei nominemur et simus「御 父がどれほどわたしたちを愛してお られるかを考えなさい。わたしたち は神の子と呼ばれるほどで、事実、 そのとおりです】呱。神はわたした ちをお呼びになりました、わたした ちは神の子です。それゆえ、肉とな られた御言葉[15]であり、in ipso vita erat, et vita erat lux hominum「彼 の内に命があり、命は人間の光で あった | 「161、彼の内に命があり、命 は人間の光であったと言われている お方であるイエス・キリストの兄弟 なのです。

光の子、光の兄弟、それがわたした ちです。人々が歩む地上の道を照ら すことができる唯一の炎の担い手、 闇も薄明も影も知ることのない唯一 の光の担い手なのです[17]。

Et lux in tenebris lucet, et tenebrae eam non comprehenderunt. 「光は 闇の中で輝いている。闇は光に打ち 勝たなかった][18]。そして、この光 は闇の中で輝きますが、闇はそれを 受け入れませんでした。主はその輝 きを、そのいつくしみの命であり温 もりである光を、人類に惜しみなく 注ぎ続けておられます。神は愛だか らです[19]。そして主は、神の光とい う火でわたしたちの霊魂を照らし満 たしてくださってから[20]、わたした ちをお使いになるのです、人々の霊 魂を照らす松明として、すべての人 に命をもたらすものとなるために。

わたしの娘たち、息子たち、多くの 魂が暗闇の中にとどまることなく、 永遠の命に至る道を歩むことができ るかどうかは、部分的にはわたした ちにかかっているのです。ですか

ら、主がわたしたちに無償で与えて くださった召命が提供する広大なパ ノラマを前にして、また使徒ヨハネ の言葉が心に浮かんでくるのです、 多くの人に繰り返し伝えるべき言葉 が。「わたしたちが見たもの、聞い たものをあなたたちにも告げ知らせ るのは、あなたたちもわたしたちと 交わりをもつようになるため、わた したちが御父とその御子イエス・キ リストとの交わりとなるため……、 あなたたちが喜びのうちにあり、あ なたたちの喜びが満ち溢れるように なるためです | [21]。

4 わたしたちは、神から受けたこの 召命に対して、しばしば神に感謝を 捧げるべきです。この感謝が、わた したち一人ひとりの魂において、主 の限りないいつくしみによってもた らされたこの光の最初の帰結でなけ ればならない謙遜と密接に結びつい た、本当に深いものでありますよう に — quid autem habes quod non accepisti?[あなたが持っているもので、受けなかったものが何かあるでしょうか?] [22]。あなたが持っているもので、神から受けなかったものが何かあるでしょうか?

しかし、それだけではありません 一 si dixerimus quoniam peccatum non habemus, ipsi nos seducimus, et veritas in nobis non est 「もしわ たしたちには罪がないと言うなら、 わたしたちは自分を欺いており、真 理はわたしたちの内にありません [23]、もしわたしたちには罪がないと 言うなら、わたしたちは自分を欺い ており、わたしたちの内に真理はあ りません。反対に、もしわたしたち が謙遜で誠実であるならば、人間の 弱さに固有のみじめさや、起こりう る困難は、神の光と愛がわたしたち の内に宿ることに対する障害には決 してならないでしょう。そのように して初めて、わたしたちは忠実な光 の子として、神の絶え間ないいつく

しみの対象として、また神の御心の 効果的な道具として行動することが できるのです。

この謙遜は、わたしたちの魂の内に、そしてわたしたちの周囲に、大きな信頼を育み、伝えるでしょう。 「わたしたちには御父のもとに弁 者であり正しい方であるイエス・がおられます。この方こそ、わたしたちの罪のために、いでなく、 全世界の罪のためにささげられた贖いの供え物です」 [24]。

だから、わたしの子どもたち、謙遜と信頼です、神がわたしたちに指し 示された道にわたした理解し、された道にわたして理解し、です。そのように忠実ではのです。そのように忠大をにはいったら、たしたちにはいつも確信がなら、わたしたちにはいったしたちにはなら、わたしたちにはいったもしたの当にイエス・キリストを見出したの だ、わたしたちは御父の御心を果たしているのだ、わたしたちが受けた 召命に、わたしたちは子として真摯 に応えているのだという確信が。

聖パウロの言葉を聞きましょう。 「信仰によって、あなたたちよの心う 内にキリストが住まわれますし、でいるなたたちが愛に根ざし、を据え、その広さ、ものではさいるを据えがどれほどのもに理解するととしたちは、やとしたちは、わと共に生きるというこの神秘でしょう。

犠牲における喜び

5 神の御業、オプス・デイへの召命 が求める生活の一致には、犠牲の精 神と献身が必要であることを忘れて はなりません。わたしたちは神の道 を歩んでいるのですから、イエス・ キリストの足跡をたどらねばなりま せん、わたしたち自身の十字架、聖なる十字架を担いながら! そして、わたしたちの主である神は期待しておられるのです、わたしたちが寛大にこれを行い、犠牲を通じて御業の実現に協力することに幸せを感じることを。

そのようにしてわたしたちは、まだ 救いの種を受けていない神の畑を数 多く耕すことができるでしょう。わ たしたちは多くの抵抗に打ち勝つの です、イエス・キリストとその教会 に反対する人からの ― ときにはキ リストの友と自称する人からの ― 抵抗に、また、神の子たちの自由 と、神の御国 一 愛と下義と平和の 御国 一 の実現を妨げようとする人 からの抵抗に打ち勝つのです。そし て、わたしたちはまた、わたしたち 一人ひとりの自由で責任ある働きを 通じて、人間がつくった高貴な制度 と、瀕死の状態にあるキリスト教界 とに、新たな命を与えるのです。

そうです、わたしの子どもたち、断言します、主がわたしたちの魂に宿らせようと望まれた神聖な光のおかげで、わたしたちは人々の仕事と生活を照らすために力強く貢献できるのだと。

しかし、忘れないでください、「神の内にとどまっていると言う人は、イエスが歩まれたように、その人も歩まなければなりません」「図」。常に勝利へと通じる道を、しかし常に犠牲を伴う道を歩むのです。

6 わたしたちの召命が要求する主なことについて詳しく述べることは、わたしの意図するところではありません。しかし、御父の御心を実現するためには犠牲が必要であることを、聖ヨハネの導きを通じてあなたたちに話したので、今度は、この義務を知りたいと願っていた最初のキリを知りたいと願っていた最初のキリ

スト者たちに教えたことを取り上げ たいと思います。

それは、福音の真正かつ永続的な今 日的意義をすべて備えた教えです が、神の特別な恵みによって、わた したちの魂の内に、神との親子関係 の深い意味を照らし出す光によっ て、わたしたちの目にはより明白な ものとなっているものです。「愛す る者たちよ、わたしがあなたたちに 書いているのは、新しい掟ではな く、あなたたちが初めから有してい た古い掟です。この古い掟とは、あ なたたちがすでに聞いた言葉のこと です。しかしながら、わたしは新し い掟としてあなたたちに書いていま す。そのことは、イエスにとっても あなたたちにとっても真実です。な ぜなら、闇が過ぎ去り、まことの光 がすでに輝いているからです。光の 中にいると言いながら、自分の兄弟 を憎む人は、今もなお闇の中にいる のです。兄弟を愛する人は、光の中

に留まっており、つまずくことがありません。自分の兄弟を憎む人は、闇の中におり、闇の中を歩み、自分がどこに行くのか知りません。闇が彼の目を見えなくしたからです」[27]。

わたしの子どもたち、わたしたちの 道は愛の道です。わたしたちの父で ある神への愛、誠実で、絶え間な い、こまやかな兄弟愛です。常に、 すべてにおいて、あなたたちは愛を 生きねばなりません、なぜなら天に おられるわたしたちの父の愛も、絶 えずわたしたちの心に注がれている からです「28」。神の愛に結ばれ、 consummati in unum [完全に一つ になって][29]、主のmandatum novum「新しい掟」「301を生きるな ら、わたしたちは人々のあいだで神 の光と熱となり、城壁に囲まれた都 市のように強くなるでしょう 一 frater qui adiuvatur a fratre quasi civitas firma「兄弟に助けられる兄

弟は堅固な町のよう] 国、自分の兄弟に助けられる兄弟は堅固な町のようです。

7 オプス・デイが始まったとき以来、あなたたちが細やか真に人、とれてきた、超自然的愛徳についたの素晴らしなません。男子ではありませんが、あな暖すったちのなどものもしたちなではいからではないないではないない。

しかし、あなたたちに強調せずにはいられません、わたしたちを駆り立てるこのキリストの愛が — caritas Christi urget nos [キリストの愛がわたしたちを駆り立てるのです] [32] ー、わたしたちに限りなく大きな愛を、あらゆる国、言語、宗教、人種のすべての人のための奉仕の業を伴った大きな愛を要求しているとい

うことを[33]。なぜなら、キリストはすべての人のために、すべての人のために、すべたちのでするため、わたしたちのであるために、死なれたからでもなるためによって、わるいるとは、個人的、この世的、あるするとはできません、なぜなら、わなものだからです。

わたしたち自身が働くことによって、また他の人々に、兄弟とりりないで、兄弟を取っての人と手を取ってかれての人ととというであり、とをもは生きた現実であり、特にそのであることを通しなきという「神秘体」でいることをの部分においることを。

すべての人への誠実な愛、それは、 わたしたちが神を愛していることの

神との親子関係

8 神との親子関係は、何度も言ったように、わたしたちの霊的生活の確かな土台ですから、聖パウロの次の言葉をよく黙想してください。「神の霊によって導かれる人は誰でもみな、神の子なのです。あなたたちは、人を再び恐れに陥らせ、奴隷とする霊を受けたのです。この霊にとする霊を受けたのです。この霊に

よって、わたしたちは『アッバ、父よ』と叫んでいます。聖霊ごわたしないます。聖霊ごわたしたちの霊とともに、わたした子であることをが神の子であることをがずるのです。神の相続人であります。神の相続人ですと共同の相続人ですととしたちはキリストを受けるのです。 1551。

これらの言葉は、わたしたちと父である神 — 御子と、聖化する聖霊との交わりの内にある御父 — との関係を要約したものです。もしもわたしたちが、召し出しによってこの地上において委ねられている使徒職に忠実であるなら、わたしたちは神の相続人としていただけるのです。

Postula a me, et dabo tibi gentes haereditatem tuam, et possessionem tuam terminos terrae「わたしに求めよ。わたしは

わたしたちは、自然の秩序が要求するところを尊重しつつ、神の創造にあるすべての被造物をするをすべる権利と義務がある言っても、をはなら。「パウロも、ア・生も、ア・カーも、大きの世も、大きのものものなのです」「38」。

この世のただ中で世の光となる

9 光の子たちよ、世の光となりなさ い。「あなたたちは世の光であ る…… そのように、あなたたちの光 を人々の前に輝かせなさい。そうす れば、人々はあなたたちの善い行い を見て、天におられるあなたたちの 父をほめたたえるであろう | 1391。わ たしの子どもたち、世の光となるの です、わたしたちの生活の普通の場 であるこの地上において自然に生き ることによって、人間のあらゆる仕 事、あらゆる崇高な活動に参加する ことによって、それぞれの専門職に 従事しながら、人々とともに働くこ とによって、わたしたちが生きてい るこの社会の市民たちと同じよう に、わたしたちの権利を行使し、義 務を果たすことによって。しかし、 いかなる執着からも常に自由であり なさい、愛ゆえに神の御心を果たす ことの妨げになるといけませんか ら。

そのためにわたしたちは、日々の世俗の仕事を果たしつつ、絶えずイ保ス・キリストとの親しい交わりを現たしたちの親しい交わりである。 然やされた火が決して消えたりの弱まったりすることがないようにとがないように知らているのです。 す神の光であると、周囲にいるように。 ちが本当に気づいてくれるように。

10 ですから、わたしたちの人生は神 の前での約束なのです。わたしはそ れを、簡単な雇用契約という形で具 体化したいと思っていますが、それ についてはいつか説明することにし ましょう。この約束は、宗教的誓願 としてではなく、わたしたちがキリ スト教的諸徳を生きるのを助けてく れることでしょう。「今や、罪から 解放され、神の奴隷となっているあ なたたちは、聖なるものとなるため の実りを得ています。その行き着く 先は永遠の命ですしている。

自分が自由であることを知っている キリスト者は、イエス・キリストへ の愛ゆえに、兄弟である人たちのし もべとなるために、進んで自由を失 います。わたしたちは確信していま す、神への愛と教会への奉仕のため にわたしたちがする約束は、着たり 脱いだりできる衣服のようなもので はなく、わたしたちの生活全体を、 そしてわたしたちの意志を一 主の 恵みによって 一 包み込むもの、常 にそれを包み込むものであると。わ たしたちは、何か珍奇な動物のよう に 一 大きな檻に入れられて運ばれ る白い象のような、あるいは見る人 に好奇心や感嘆の念、または不快感 を抱かせるような、奇妙で不思議 な、あるいは気味の悪い動物のよう に 一 人の目に映ってはならないの です。

わたしたちは、わたしたちの同胞である市民と同じであり、だからこそ、**常に街の中で生活し、街に出な**

ければならないのです、少なくとも 窓から身を乗り出さなければなりま **せん**。わたしたちは群衆の中に溶け 込まねばなりません、キリストの塩 として社会に味をつけるためです。 そのように、わたしたちは自分を際 立たせずに 一 なぜならそれはわた したちの精神に反するからです一、 わたしたちの身近にいる人たち、友 人、同僚と同じように、この世の崇 高な事業に携わりながら、他の人た ちに、束の間のものだけで生きては いけないことをわかってもらうので す。それだと、彼らは決して幸福に はなれないでしょう。だからわたし たちは、彼らが心と精神を天にあげ られるよう助けるのです。そうすれ ば彼らは、人間という被造物は単な る動物ではないと知る喜びを感じら れるようになるでしょう。

わたしたちは、火と光にならねばなりません、常に祭壇の上で燃える火 「ATI」となり、状況に応じて、人々を神 のもとへ導くのです、イエス・キリストの呼びかけに応えて、venite ad me omnes [みな、わたしのもとに来なさい] [42]、みな、わたしのもとに来なさいと。あるいは神を人々のもとにもたらすのです、ecce sto ad ostium et pulso [見よ、わたしは戸口に立ってたたいている] [43]、見よ、わたしは戸口に立ってたたいでいる、と主が言っておられるのが聞こえるように。

しかし、真に熱心なキリスト者は、この二つの態度のあいだで冷静にバランスを保たなければならなぜならなでなりません。なぜならいまが言われるからです、ecce venio cito et merces mea mecum est [見よ、わたしはすぐに来る、報いを携えて来て、それぞれる、報いを携えて来て、それぞれのその行いに応じて報いよう、とこはまた、マタイ福音書において、天

の国は激しく攻め立てられている[45] とも言っておられます。

復活後の、あのすばらしいエピソー ドを思い起こせば十分でしょう。主 は、歩いている二人の弟子、信仰が 揺らぎ暗い顔をした弟子たちと一緒 に歩き始められます。主は彼らに聖 書の意味を説いた後、エマオに来る と、さらに先へ行こうとなさいまし た。クレオパとその仲間は、神的か つ人間的な愛情のこもった言い方 で、主にこう願うのです、mane nobiscum, quoniam advesperascit, et inclinata est iam dies [一緒にお 泊まりください。そろそろ夕刻にな りますし、日もすでに傾いていま す〕「461、わたしたちと一緒にいてく ださい。あなたがいなければ夜に なってしまいますから(*)、と。

* 訳注 — porque sin ti se nos hace de noche「わたしたちにとって — わたしたちの心は — 、あなたがい

なければ夜の闇となってしまいますから」というようなニュアンスが感じられる表現。

仲介者キリストとの一致

11 神の御子が人となり、十字架上で死なれたのは、すべての人が御子と御父ともに一つになるためでしたないですから、わたしたちは皆、この父と子の一致に加わるよう召されているのです。わたしたちは、司祭的魂によって、聖なる御ミサをわたしたちの内的生活の中心としています。

キリストと一致することによって、 わたしたちは自覚するのです、わた したちはキリストとともに世を贖う ものとなり、すべての人がキリスト の受難の実りを分かち合い、御父に 至る救いの道を知り、その道を歩む ことができるようにするのだと。 何度でも言いますが、この世での仕事に励みつつキリストと一致するから 寛大に抱きしめなければなりませい したちに抱きしめなければなりませい したちの生活の塩ですると 性はわたしたちの生活を維持するよい 超自然的な生活を維持する野いには、日々の仕事に細やかで野いな犠牲が伴わなければならないです。

そのようにしてわたしたちは、この 世の現実のただ中で生き、働いてい る他の人たちに、イエス・キリスト の司祭的祈りの意味を示すのです。 Pater sancte, serva eos in nomine tuo, quos dedisti mihi... Non rogo ut tollas eos de mundo, sed ut serves eos a malo. De mundo non sunt, sicut et ego non sum de mundo.

[聖なる父よ、わたしに与えてくださった者たちを、あなたの名によって守ってください…… わたしがお願

いするのは、彼らを世からとではなく、彼らをです。 他とです。 他とです。 他とってにないないがれたらしもいないがないが、なるではないがれたないがしたないがしたないがしたないができるが世に属しているがあいいないが、 ここのはなるでは、 くってはいないがあるではないがしたがです。 他に属してはいないのです。

12 わたしの魂の子どもたち、こうした思いがわたしの心に浮かぶのですーきっとあなたたちもそうでしょうー、人間の営みのただ中で行うわたしたちの使徒的使命の偉大さを前にするとき、わたしは、十字架上のイエスの死の一勝利の一場面と一つになって、イエスが語られた次の言葉を心に刻もうとするのですー et ego, si exaltatus fuero a terra,

omnia traham ad meipsum [そして、わたしが地上から上げられるとき、すべてをわたしのもとに引き寄せる] [49]、わたしが地上から上げられるとき、すべてをわたしのもとに引き寄せる。

日々の仕事を果たしつつ、祈りと犠牲によってキリストに結ばれ、ごる普通のキリスト者として生きているわたしたちの様々な状況の中で、おたしたちは、主の足元にすべてを置くことのすばらしさを実感することでしょう。主は、世界と人類に対る大きな愛ゆえに、自ら十字架に釘付けにされ、上げられたのです。

このようにわたしたちは、神を愛し、自分の専門職や仕事、主がわたしたちを呼ばれたときにわたしたちがしていた仕事を果たすことによって、わたしたちの使徒職を行うのです。それは、人間のありとあらゆる活動の頂点とその中心に、キリスト

をすえることです。なぜなら、これらまじめな活動のいかなるものも、わたしたちの働きから除外されることはなく、すべてキリストの贖いの愛を表すものとなるからです。

世俗生活の現実であり、聖性の手段 である仕事

13 ですから、わたしたちにとって仕事とは、単に経済的な必要を満たし、他の人たちともにごく普通に生活するための自然な手段であるなりでなく、また何よりも、人の具体的な手段であり、神がわたしたちに示された個単化の具体的な手段であり、神がわなき物全体の中でが被造物全体の中でがあるために、神がわためになるために、神がわためになるために、神がわための使徒職の偉大な道具でもあるのです。

仕事は、この地上での人間の生活と ともにあるものですが「501、わたした ちにとっては同時に — また最高度 に、なぜなら自然的な要求とは別に 明らかに超自然的な要求もあるので すから — わたしたちの意志と天の 御父の救いの意志とが出会う場でも あるのです。

わたしの子どもたち、改めて言いますが、主はわたしたちを呼んでくださったのです、各自が自分の生活の場において、自分の専門職や務め合果たしながら、仕事を通じて自してありたしたちの人間的な仕事は、当然のこととして、opus Dei [神の仕事]、神の仕事と見なされることができるのです。

主は、神の子たちがその頭と体を使って行う仕事に、大きな価値を与えてくださるのです。このように、人が、神の御前で、愛と奉仕のために、司祭的魂をもって行うことすべてが、わたしたちの生活をすべての

恵みの源に結びつける、超自然的意味を獲得するのです。

こうしたことすべてが、聖職者至上 主義と呼ばれているものとどれほど かけ離れたものであるか、わかるで しょう。なぜならそれは、キリスト と教会の超自然的な使命をこの世的 なものにすることではなく、それと は反対に、人間のこの世での活動を 超自然的なものにすることだからで す。実際わたしたちは、人間の正当 な仕事はすべて、それがどんなにさ さやかで取るに足らないように見え ても、常に超越的な意味をもつも の、愛を動機とし、神について語 り、神へと導くものとなり得ると確 信しているのです。

14 ですからわたしたちは、神的な現実を素晴らしい単純さをもって示しているこの単純な聖性の道を、人々に示さなければなりませんし、わたしたちはそうすることができるで

しょう、もしもわたしたちがこの教えをわたしたち自身の模範によって伝え始めるなら、わたしたちが自分の仕事を 一人間的な意味でも可能な限り完全さを目指しつつ 一、それを神への捧げものとすることができるよう、しっかりと果たしながら生きるなら。

もしもわたしたちがそのように自分 の専門職を実践するなら、もしもわ たしたちがこの世のただ中でそのよ うに自分の活動を行うなら 一 皆に 知られているそれぞれの仕事あるい はmunus「務め、青務」を果たして いくなら一、他の人たちはわたした ちから学ぶでしょう、そうしたこと は本当に可能なのだということを、 日常生活のごく普通の状況において も、主がわたしたち全員に示された 掟を、自分も霊的に実行することが できるのだということを — estote ergo vos perfecti, sicut et Pater vester caelestis perfectus est [だ

から、あなたたちの天の父が完全であるように、あなたたちも完全な者となりなさい] [51]、あなたたちの天の父が完全であるように、完全な者となりなさい。

仕事において神の御心を行うこと、 仕事において神を観想すること、神 と隣人への愛ゆえに仕事をすること、 と、仕事を使徒職の手段に変えること、 と、人間的なことに神的な価値を与 えること、これが生活の一致です。 単純で強力なこの一致を、わたした ちは自分のものとし、教えねばなり ません。

この世のただ中にあって観想的であること

15 この世のただ中にある観想的な霊魂、それがオプス・デイのわたしの子どもたちであり、それこそが、あなたたちが受けた召命を忠実に忍耐強く果たすために、常にそうあるべき姿なのです。一日のどの瞬間に

も、わたしたちは心からこう叫ぶことができるようになるでしょう、loquere, Domine, quia audit servus tuus [主よ、お話しください、あなたのしもべは聞いております] [52]、主よ、お話しください、あなたのしもべは聞いております。

わたしたちはどこにいようとも、街の喧騒の中でも、工場、大学、畑、オフィス、あるいは家庭で仕事をるしているときでも、自分が神の子であることを素直に観想し、神との絶え間ない対話を続けることでしょう。

なぜならすべてが 一 人も物事も仕事も 一 主との絶え間ない語り合いの機会やテーマを与えてくれるからです。召命の違いから、他の人たちにとっては、世を捨て 一contemptus mundi [世を蔑む] 一独房や砂漠で沈黙の内に生きることが観想生活を容易にしているのと同

じように。しかし、主がわたしたちに求めておられるのは内的な沈黙、つまり、古い人間のエゴイズムの声を黙らせることであって、世界の沈黙ではありません。なぜなら、世界はわたしたちのために沈黙することはできませんし、沈黙してはならないからです。

16 父なる神とのこうした忠実で親し い交わりに、わたしたちは召命に よって招かれているわけですが、こ の交わりがなければ、オプス・デイ で堅忍することは非常に困難である ことは確かです。ですから、「あな たたちが行うことはすべて、人間の ためではなく主のためと思って、精 魂をこめて果たしなさい。あなたた ちは報いとして、相続できる、約束 されたものを主からいただけること をわきまえなさい。あなたたちは主 キリストに仕えているのですしている。

このように生活の一致を保ち、ま た、この世のただ中で 一 街中で、 野外で、太陽の下で、雨の中で 一 観想的であろうとすることによっ て、あなたたちは、この世の現実か ら離れずに現世的な活動を続けよう とするだけでなく、これらすべての 世俗的な現実の中に果敢に入り込ん でいき、そこから神が求めておられ ることを世に示したいという使徒的 な熱意に駆りたてられることでしょ う。神の子としての兄弟愛 一 人間 的な兄弟愛には超自然的な意味があ るのです ― それが世界の諸問題を 解決するための大きな手段となるこ とを教えるのです。人々から利己主 義の殻を取り除くのです。また、集 団の中に埋没してしまっているよう な人たちに、必要な人格と真の自由 qua libertate Christus nos liberavit「この自由によってキリス トはわたしたちを自由なものにして くださったのです] [54] ― とを保証 するのです。つまり、一言で言うな

ら、この地上で神に至る道を人々に 開くのです。

17 愛する娘たち、息子たち、神との親子関係という共通の糸で結び合わされたわたしたちの霊性のこれらの特徴的な面を考えるなら、それがどれほど使徒職という大いなる展望へと広がっていくか、わかるでしょう。

あなたたちは神に感謝せねばなりません、なぜなら神はわたしたちにでの霊性を与えてくださしくからったがらいていまさしいで、まさしてであると間に実にも近いのでである高貴にも近いであり、はまってもはまれなり、神の憐れみによってあり、神の憐れみによがあれるであり、神の憐れみによがあれるであり、神の大れを受け取り、謙遜をしたちはそれを受け取り、謙遜をしたちはそれを受けなり、はたちはそれを受けなり、はないであり、はないであり、はないであり、はないであり、はないです。

しかし、この霊性と修徳的精神ゆえ に、あなたたちのパドレや兄弟たち がしばしば犠牲を強いられてきたこ とを心に留めておくべきでしょう。 わたしたちは無理解にさらされ、神 が望まれた道を狂気の沙汰、さらに は異端と決めつけられ、それに従う 者は狂人、異端者扱いされたので す。

18 光のあとに闇が続くように、主は神の御業が無理解を招き、中傷やることさえ許されることがよくあるのです。それはしばるとがよくあるのです自的な人々がたちは、《善良》で盲目的な人々がたちは、自分たちは、自分を楽あるいは利己主義からはずれることを受け入れようとものはず、生活を複雑にするようなものであれ避けようとするのです。

教会の中にさえ、たくさんの聖なる 人や、少なくとも自分の義務を果た す人のほかに、熱意のない人、神の 教会の官僚など、魂のことなど気に かけていような印象を与える人 が大勢います。霊的な言葉を理解していない人たちもいて、そのような 人たちに霊的なことについて話して も、虚しく響くだけのようです。霊 的な生き方をしようとしてこなかったからでしょう。

ときに思うことがありました、ろくに準備ができていないとしても、情報を求め、被告人の話を聞き、彼が教えていることとそれがもたらす果実を研究することが、彼らに課せられた差し迫った義務であることに気づくべきだと。

わたしは黙っていますし、できる限り黙っているつもりです。しかし、オプス・デイの精神を守ることは神との友情を守ることだと、わたしははっきりと感じているのです。神はわたしたちにこう言っておられるのですから — ergo iam non estis

hospites et advenae, sed estis cives sanctorum et domestici Dei

[だから、あなたたちは、もはや寄留者でも他国の者でもなく、聖なる者であり、神の家の者なのです] [55]、だからあなたたちは、わたしにとって、もはや外国人でも寄留者でもありません、聖なる者たちの同胞であり、神の家族をなす者なのです。

19 彼らは盲目であるがゆえに、安楽を求めるがゆえに、理解できないまない。 理解できなけれている自由 一個人の自由 一るといっているとが。彼らは理解できなどの場合であるいで合ったないで合っているというにはしまってあるとが。 大きに責任を負うのであるとが、大きによいるが、人の事柄においては、教会が人な問題にでいる神どに、他の兄弟たちにはいるはいるはに、他の兄弟たちにないては、他の兄弟たちにないるはいるはいる神学的な問題についてと同様に、他の兄弟たちにないるがはないる神学的な問題にないてと同様に、他の兄弟たちにないるがはない。

もっとはっきり言えばオプス・デイの他のメンバーたち ー は、あるー人のメンバーの見解に従う義務はないからです。福音書にneque enim fratres eius credebant in eum [兄弟たちも彼(イエス)を信じていなかったからである] [56] ー 誰もイエス・キリストを信じなかった、とあるのを読むことは慰めになります。

また、自分たちの長年の経験をもと にわたしたちを評価し、偏見をもっ てわたしたちを見る人々もいます。 しかしわたしは 一 あなたたちも同 意してくれるでしょうが 一 ベテラ ンも新人も活力に満ちていられると 思っています。子どもも、若者も、 壮年も、老人も、心身ともに等しく 健康でありうるのだと。彼らは、歳 を重ねた者の**偏見と用心深さ**をもっ て、わたしたちに助言を 一 わたし たちが求めてもいない助言を 一 与 えてくれますが、わたしたちが必要 としているのは祈りと理解、そして 愛情なのです。

神への希望と信頼:喜び

20 こうしたことはすべて過ぎ去るでしょう。それまでわたしたちは内宮 生活で闘いましょう、楽観主義闘いをのようと称をであるないをでしたちかっていかがいだったの最初の数年間に射待としょうでいるの最初を繰り返しませんがいであるですがあるとでですがあることを」[57]。

わたしは今も言い続けています、 「神はもっと知っておられる」と。 わたしの子どもたち、eratis enim aliquando tenebrae, nunc autem lux in Domino: ut filii lucis ambulate 「かつてあなたたちは闇でしたが、 今は主にあって光となっています。 光の子として歩みなさい] [58]、かつ てあなたたちは闇でしたが、今は、 主にあって光となっています。光の 子として歩みなさい。

矛盾に直面したときは、イエスがパウロに語った言葉を、そしてパウロがわたしたちに語ってくれる言葉を聞きましょう — sufficit tibi gratia mea, nam virtus in infirmitate perficitur [お前はわたしの恵みで十分だ。弱さにおいてこそ、力は余すところなく発揮されるのだ] [59]、わたしの恵みはあなたには十分である、わたしの力は弱さにおいてこそ余すところなく発揮されるのだから。

あなたたちを誹謗する人々に対して、あなたたちは間違いなく、テルトゥリアヌスの『護教論』の最後の言葉を、謙遜に、そして力強く、言うことができるでしょう。「神の業

と人間の業との間には大きな矛盾があり、あなたたちがわたしたちを非難するとき、神はわたしたちを赦されるのです」[60]。

このようにして、福音の真の霊性は、初期キリスト信者が暮らしていた異教社会のあらゆる領域で、聖性の豊かな実りを生み出したのです。 彼らは信仰を誠実に生きた男女であ り、それゆえに布教者であり、市民は市民として、奴隷は奴隷として、 他の人たちのあいだで自然に働き、 うるわしい兄弟愛を実践し、一人ひ とりが受けた賜物に従って神と福音 を広めることに献身しました[63]。そ の結果、異教社会全体がキリスト教 化されたのです。

22 それ以来、何世紀にもわたって、イエス・キリストの模範に忠実に従おうとする人々は絶えませんで、伝わし、彼らは少しずなしが、方さいた三つの誓願、宣言は、おった三位を集中するよの言葉を分けるようで、その結果、これらの言葉を引ました。その結果、これらの言葉を引まる特定の生活状態の修徳的柱として典型化されたのです。

このようにして、修道者固有の条件が形作られるようになり、修道者は、その歴史的発展の様々な形態に

おいて、常に 一 実質的な要素として 一 世俗社会と世俗的な仕事や活動から多かれ少なかれ完全に離れることが求められてきたのです。

神からこの召命を受けた人々にとって、普通のキリスト信者の現世的の 職業や仕事は妨げとなるものできるしてきるいで、 それを**必須の**条件としきるして捨ることが り、**福音的完徳の生活**を生きるして によって個人的な聖化を追求の生活 で、 が り、そして自分の 大態に適合した使徒職の業を通じ で、世俗社会の外から他者の救いを 促進しようとしたのです。

この世において聖性を求める

23 このことは、普段の活動や、この世での生活の条件や状態から離れることなく、神の御意志を完全に果たすために自らを捧げようとした人たちが他にはいなかったと言うことではありません。そうした人たちはいましたー たいていは孤立していま

したが-、そのなかには教会が聖人と認めて栄光の座にあげた人たちもいました。

しかし、これらの人たちの大多数 は、影に隠れ、気づかれることもないまま、沈黙を守っていたので、彼らの聖なる生涯がどれほど他の人たちの模範となり、教会の聖性に貢献してきたかは、ほとんど知ることができません。

これら特別な人たちの模範と同様に、洗礼を受けたすべての人は、この世のただ中で普通に働く生活を送りながら、自らを聖化し、キリスこと教的生活の力強いパン種となることができるし、そうでなければならないという明確な教義もまた一、半ば闇に包まれた状態にとどまったままでした[64]。

24 男性であれ女性であれ、寛大な魂の持ち主はいて、主のぶどう園で全

力で働きたいと感じています。しかし、彼らは修道者としての召命を受けているのでも、福音的完徳の生活を望んでいるのでもなく、この世のただ中で普通の生活を送りながら、キリスト教的完成を求め、使徒職に身を捧げるという願いを実現したいと思っているのです。

完全さを渇望するこれらの魂は知っているのです、多くの環境がががるのですがってあるのですが一、司祭や修道者には、そのいるといるのとなれていることのであるとのできないできないできないであるといるでは、しばしば教会の生活、職業、またようでは、しばしば教会が表しいばしば教会が表しい活動が、しばしば教れた人々にいるをはからい活動から、遠くないます。

25 ところで、わたしの娘たち、息子たち、一これは、聖なる教会が福音

の精神を守ることができるように配慮してくださる神の摂理の現れですが一1928年10月2日以来、主はオプス・デイに、キリスト教的完成へに、キリスト教的完成へにないがあり、それにびかがあることを、たってがあることをです。となってもいるできるなたたちの言葉によったちにし、あなたたちの言葉によったちにあなたたちの言葉によったちにあかにし、それをすべての人たちにあかにし、それをすべての人たちにあかにしておられるのです。

主が望んでおられことは、あなたたち一人ひとりが、この世におけるそれぞれの身分に固有な状況のなかで、聖人になるよう務めることないです、haec est voluntas Dei, sanctificatio vestra [あなたたちが聖なるものとなること、これを神はお望みです] [65]。神の御心は、ち神はおたちが自らを聖化することであることでありませんが一日々、英雄的に、キリス

トと共に贖い、キリストと共に魂を 救い、すべての人間的な事柄をキリ ストへと向かわせようとする聖性な のです。

神は、オプス・デイの精神に従って あなたたちが求めている個人的な聖 性を用いて、あなたたちがすでに 知っていることを — 洗礼によって キリストに結ばれたすべての信者 は、キリスト教的生活を十全に生き るよう招かれているということを — すべての人に教えるようを望んでお られます。

聖性への召命はすべての人のための もの

26 主は望んでおられます、わたしたちが主の道具となり、自分の召命を実際に生きることによって、聖性への召命は真に普遍的なものであり、少数の人々のものでも、ある特定の生き方、一般的に世俗を捨て去ることを条件としている生き方に限定さ

れたものでもないことを、人々に思い出させることを望んでおられるのです。

わたしの子どもたち、これは確かな 教えであり、神からの光でも観想であり、神からの完成や観想では、 神からの完成や観想でも が、ないないはでででいる。 を考える人が、聖書とてはないでいる。 を表しておりないではまた、かかえいでは、 はたちにはないではないにしたが、 はないではないにしたがいたがいたがいたがでいたが にしたが、 はたちにはないにないたが になったがいたがにないたが になっているというがいたいです。 とれるのです。

27 オプス・デイの目的は、ひとえに 超自然的なものです。だからこそ、 各メンバーの個人的な自由がその精神の一部をなしているのです。だか らこそわたしたちは、わたしたちの 活動から、誰一人として排除しない のです、たとえわたしたちの信仰を 共有しない人であっても、わたした ちの熱望を共有したいと望む人であるなら、誰であれ排除しません。

あなたたちもよく知っているよう に、わたしたちの霊的家族の中には 絶対主義はありません。そうしたリ スクを避けるために、あらゆる配慮 がなされており、まず合議制による 統治があります。しかし、オプス・ デイの中には、基本的なことについ ての分裂も**複数の意見**もないでしょ う。わたしたちはconsummati in unum [完全に一つ] [66]なのですか ら。わたしたちには共通の小さな分 母があります。それは教会の教えで あり、その中に、個人的な聖性とわ たしたちの周りにいるすべての人た ちの聖性を求めるという、オプス・ デイに特徴的な精神と、街のただ中 で使徒職を実践するという特有の方 法があります。そして、非常に大き な分子、時と場所に常に適応する、 果てしない海があります。そこでは 様々な意見があり、それが良い精神

の証拠、オプス・デイには暴君も奴 隷も存在しないという事実を示す明 らかなしるしとなるでしょう。

主は、人類の歴史の中に見られるあるとを理解するために十分ましたされたされたされたもれば、奴隷にされた多いではない。 を表したが多いではながらいたがられば、なることがらいたがらいたがあり、ないのではです。 では、ではでするがあない。 ではでするがあない。 をではでするがあない。 をではでするがあない。 をではでするがあない。 をではでするがあない。 をではながらいた。 をではながらいたがあるためのはない。 をではながらいたがあるたい。 をではながらいたがあるたい。 をではながあるたい。 をではない。 をでいる。 をでい。 をでいる。 をでい。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。

しかし、この秩序は、自由な意思に基づく徹底した従順さをもって生きられるもので、一あなたたちはわたしが言っていることを理解してくれると思いますが — それは組織なき組織なのです。だからこそ、改めて言いますが、この世における事柄と

教義に属さない神学的な事柄においては、すべての意見は良き精神の健 全な現れとして認められ、尊重され るべきなのです。

28 オプス・デイには、さらに、喜 び、仕事への愛、清貧への愛という 三つの特徴があります。わたしたち は神に最良のものを捧げます。神を 礼拝するとき ― 普通は小さな聖堂 で行いますが一、わたしたちは注意 し、努力を払いながら行います。カ インのいけにえを神に捧げるような ことにならないためです。前にも話 したように、男性が愛する女性に愛 のしるしとしてセメントの袋と鉄の 棒3本を捧げるようなことを、わた したちも天におられ御聖櫃にもおら れるわたしたちの主に対してするこ とになってしまいますから。

わたしの子どもたち、わたしたちの 貧しさは人目を引いてはならないの です。わたしたちの貧しさは、笑顔 によって、身体と衣服の清潔さに よって、そして何よりも魂の清潔さ によって隠されています。だから、 地上での称賛を期待せず、聖マタイ の言葉を忘れないようにしましょう — Pater tuus, qui videt in abscondito, reddet tibi [隠れたとこ ろで見ておられるあなたの父が、あ なたに報いてくださる] [67]。

ですからわたしたちは、常に、人間 にとって自然なことを、超自然的な 感覚をもって生きなければならない のです。ですからわたしたちは、地 上の事柄を神的なものにすることが できるのです。ですから、召命を受 け入れることは、わたしたちにとっ て犠牲ではありません。それは犠牲 ではなく、選びと愛の証しであるこ とを、わたしたちは知っているから です — redemi te, et vocavi te nomine tuo, meus es tu [わたしは お前を贖い、お前の名をもって呼ん だ。お前はわたしのものヿゖゟヿ

29 わたしたちは、詩編作者がわたし たちの贖い主であり模範である主に ついて述べていることを、自分自身 についても言うことができます、 exsultavit ut gigas ad currendam viam「彼(太陽)は巨人のように喜 びながら道を走る〕、わたしたちは 実に小さいものでありながらも、a summo caelo egressio eius et occursus eius usque ad summum eius「彼は天の果てから出て、その 果てまで行き〕、わたしは自分の道 を走る巨人のように喜び、果てから 果てへと行き、天に至り、その果て にまで行き着きます、nec est qui se abscondat a calore eius「その熱か ら逃れられる者は誰ひとりいない] [69]、誰も隠れることができず、すべ ての人がその熱を受けるのです。

主がすでにわたしたちの手を使って、わたしたちに近づく人たちの内に不思議な業を行われているのを見ても、わたしたちは高慢の誘惑に引

き込まれたりはしません。なぜなら、わたしたちの心の奥底で、詩編のこの一節が鳴り響いているからです。Tu es, Deus, qui facis mirabilia: notam fecisti in populis virtutem tuam [あなたは不思議な業を行われる神。御自分の力を諸国の民に示された] [70]。あなたは不思議な業を行う神、あなたの力を諸国の民に知らせる方。

だから、nolite itaque errare, fratres mei dilectissimi: omne datum optimum, et omne donum perfectum, de sursum est, descendens a Patre luminum, apud quem non est transmutatio nec vicissitudinis obumbratio [わたしの愛する兄弟たち、思い違いをしてはいけません。善い贈り物と、完全ないけません。善い贈り物と、完全なおけません。ありません。影に隠れることもありません] [73]、わたしの愛する

兄弟たち、思い違いをしてはいけません。善い贈り物と、完全な賜物とは、すべて上から、光を造られた御父から来るのです。御父は、他の人々のように、移り変わることも、影に隠れることもないのです。

光の源である愛

30 あなたたちがこの教えのすべてを 生きるなら、時には話すだけではも はや十分でなく、恋人に愛を語ろう とする若者たちのように、愛のため に歌う必要を感じるでしょう。し に、あなたたちは、神に捧げるたし に人間の愛の詩を作るのです。 福音 記者たちを連想させる — あの生き 物たちのように、自分を感じること でしょう、ibant et revertebantur in similitudinem fulguris coruscantis

[(その生き物たちは)まるできらめく稲妻のように行きつ戻りつしていた] [72]。あなたたちは世界を巡り

歩き、光を放つのです、燃えて火を まきき散らす松明のように。

聖霊は、わたしたちの母である教会 一 古くて新しく、常に今を生きる現 実であるイエス・キリストの教会 ― が、託された豊かな宝を忠実に守れ るよう、その若さを新たにするため に必要なエネルギーを絶えず得られ るようにし、そうやって教会が、時 代に応じてキリスト教のメッセージ をすべての人々に伝える方法を見い だし、人々の言葉に適応し、そのメ ンタリティを理解できるようになさ るのです — nova et vetera, dilecte mi. servavi tibi「新しいのものも、 古いものも、わたしのいとしい方、 あなたのためにとっておいたので す〕「アヌス、ああ、いとしい人よ、あな たのために、わたしはとっておいた のです、新しいものも、古いもの も、と雅歌で歌われています。

そして、福音書には、omnis scriba doctus in regno caelorum similis est homini patrifamilias, qui profert de thesauro suo nova et vetera [天の国について学んだ学者はみな、新しいものと古いものを、自分の倉から取り出す、一家の主人に似ている] [74]と書かれています。天の国について学んだ人はみな、新しいものと古いものを、自分の蔵から取り出す、一家の主人に似ている、と。

いは考えることができるような視点から神を見ること、とも言えるでしょう。わたしたちは決して氷のような冷たい模範になってはなりません。そんな模範は、称賛されることはあっても、愛されることはないでしょう。

ですからわたしたちは、若々しい精神で福音の宝を集め、地の果ての国々にまで届けてきました。したもしたちは**革命を起こす**たしたちはありません。わたしたちはありません。教えではありりののかられたとすが聖なる教会のために幾世紀でもから。ですし、愛しながら。

聖霊の働き

32 Spiritus ubi vult spirat, et vocem eius audis, sed nescis unde veniat aut quo vadat [風(霊) は思いのままに吹く。あなたはその音を聞く

が、それがどこから来て、どこに行 くかを知らない」「75]。風(霊)は思 いのままに吹き、その声は聞こえる が、それがどこから来るのか、どこ へ行くのか、あなたは知らない。そ れがわたしの人生でした ― そのこ とをわたしは、感動しながら、わた しの神への感謝を込めて書いていま す、わたしはあわれな罪人ですから 一、何年ものあいだそうでした、主 がわたしに豊かに恵みを注いでくだ さり、御自分の「業」オプス・デイ において働くよう、はっきりと、明 確な召命を示しつつ、わたしを招か れるまでは、

オプス・デイは祈りによって前進します。わたしの祈りによって — そしてわたしの惨めさによって — 、それが神の目には、御心の実現のために必要な力となるのです。そして、多くの人たち — 司祭、信徒、若者、老人、健康な人、病気の人たち — の祈りによって。わたしはそ

の人たちに頼みました、主が聞いてくださるに違いないと確信していましたから、わたしの意向のために 祈ってくださいと。最初はわたしだけが知っていた意向のために。それたしのあとに続いてくれたしたちの祈りと犠牲と働きによって、たちの祈りと、ただ一つの強力な武器持ったのです。

そのようにしてオプス・デイは成長し一 そのように成長し続けるでしょう 一、ありとあらゆる場所に広がってきました。病院や大学、恵まれない地域の要理教室、家庭や人がない地域の要理教室、家庭や人ないない場所に。貧しい人、裕福な人、あらゆる階層の人々のあいだで。神がわたしたちに託されたメッセージをすべての人に届けるために。

33 それが、オプス・デイが直接的に、寛大に、誠実に、策略や人間の

庇護に頼ることなく、一例えてみるなら 一暖かな太陽や豊かで魅力的な花を求めて絶えず飛び回ることなく、果たそうとしている使命なのです。太陽はわたしたちの内にあり、使徒職は 一 そうあるべきものですが 一、街中で行われ、すべての人に向けられているのです。

最初の頃、わたしは神への深い感謝 の気持ちでいっぱいでした。そして 同時に、わたしの子どもたち、わた しは考えたのです、オプス・デイに 託されたこのカトリック的で普遍的 な種を、地球上のすべての国々、た 間の活動のすべての領域に蒔くため に、わたしたちはどこまで行かねば ならないかと。

だからわたしは、あなたたち皆の祈り、犠牲、専門職と喜びに期待し続けながら、絶えず主への信頼を新たにするのです — universi, qui sustinent te, non confundentur [あ

なたに希望を置く人たちは、だれひとりとして恥を受けることはありません] [76]、あなたに希望を置く人たちは、だれひとりとして恥を受けることはありません。

魂の渇き

34 わたしの子どもたち、いつも絶えずわたしの意向に心を合わせ、また自信を持って、若々しさを新たにしながら、オプス・デイの発展のために働き続けてください — qui replet in bonis desiderium tuum:

renovabitur ut aquilae iuventus tua [(主は)生涯、お前を善いもので満たされる。お前の若々しさは鷲のように新たになる]m。わたしたちの神は、わたしたちの心に置かれた望みを実らせてくださり、地上でのわたしたちの霊的な仕事は、常に活力に満ちた若々しいものとなるからです。

主は、あなたたちとわたしに期待しておられるのです、神の限りないってもたしたちに与えられた召命を喜び感謝しつつ、わたられた召命を喜び感謝しつつ、れと喜びの種をまく大軍団を形成し、中ではなるで無数の魂がわたしたちとを一て無数の魂がわたしたちとを一てはなることを一ていいでは、全地よ、主に歌え」「1781。

御業によって神の子とされたわたしたちが、自分が神の子であることを心から感じ、兄弟愛という力強い絆で結ばれて生きるなら、使徒職を行う組織なき組織 — と前にも言いましたが — それが簡単にできるでしょうし、キリスト教の生命力を社会の血流に絶え間なく注入し続けることができるでしょう。

35 主は、あなたたちが、個人的な使 徒職を通して一人で、あるいは、他 の人たち 一神から離れている人 や、カトリック信者でない人、キリ スト教徒でない人たち ― と力を合 わせて、世界であらゆる種類の美し く穏やかな事業を計画し、実行する ことを望んでおられます。それら は、地球の表面のように、またそこ に住む人々の感情や願望のように多 様で、社会の精神的・物質的善に貢 献し、すべての人にとってキリスト に出会う機会、聖性の機会となるで しょう。

いずれにせよ、どんな形の使徒職を実行するにしても — それを自分—人でするのであれ、他の市民とともにするのであれ — 、自由に使える重要な手段はあなたたちの専門職です。ですからわたしは何度もくりの専門職への召命は、神的な召命の重要な部分をなすものだ

と。また、だからこそ、オプス・デイが世界で実行する使徒職は常こと、おり、現代的で、必要とされる人がであると。なぜなら、地上にるのがであると。なり、働く男性や女性がいるの労働であれーをもであれている人を事を聖化するように通じであれたち、その仕事を聖化し、他の人たちでも自身を聖化し、他の人たちでもし、たちが。

とができる人たち、人生においても、仕事においても、オプス・デイであることができる人たちを。けれることができる人たちをは思ったでしょうのようなことを、彼らは思んといる場合、異教的な環境の中で生きての場合ですから一、神との友きできるがらった。 献と奉仕の人生を送ることができるなどとは。

オプス・デイへの召命はすべての信 者に向けられている

36 あなたたちも個人的な経験からよく知っているように、神のいつストラに、神のいつストラに、神のいつストランスをあります。オプストランスをある国、人種、大種、大人々がやってくるでしょう、建りも若者も、独身者も既婚者も、健りな人も病気の人も。その一人ひとりが、神の御意志によって定められた場所を見出し、一人ひとりが、主が

与えてくださる機会 — 特別な恵み — を活かすことができるでしょう。

初代キリスト教の味わいをもつこの 道は、多くの人々の人生に、驚くほ ど単純な方法で、恵みの奇跡を新た にするために神が生み出されたのだ と思いつつ、わたしは、聖ユスティ ノスが福音の驚くべき力に驚嘆しな がら書いたことをゆっくりと読み して喜んでいます。彼はこう言って います。

「かつては放蕩を楽しんでいたわたしたちは、今は貞潔だけを受けていたれ、かつては魔術に身を捧げてれたしたちは、今は生み出きがではない善なる神に身を銭していたものではないではないするとを愛していては石いたりなっては石いに憎み合い、傷つけたりに対したといい。傷つけては石いに関み合い、傷つけたわない。たれては石いに関み合い、傷つけたわない。

37 神に呼ばれたなら、誰でもオプス・デイのメンバーとなることないます。オプス・デイへの召命は、ますを変えることを伴いません、ことを作りないのです。一人ひとどまりがないのです。場所にとどまりかでよりではないる場所にとどまりの仕事、メンタリティー、共分にとどの仕事、専門職に伴う責任、共らの関わりない。なぜなら、これらの関わりは

すべてキリスト者としての使徒職の ための手段であるからです。

神の御業オプス・デイは、メンバーに超自然的精神、特有の修徳性、適切な教理的形成与えることによって、その人がまさにこうした人間的現実**の中で、**その現実**を通じて**、自らを聖化し、自分のオプス・デイを実現できるようにするのです。

しかし、このように精神と形成との一致を常にはかりながら、オプにはかりながら、オプにない。この世に、この世に、この世に、立て一職業的、文化的、がらのの治的に携わりなる自分のな活動に、それでする。その信息をして、ない許のであることのであることのであることのであることのだからです。

38 オプス・デイの神学的・使徒職的現実は実に独自なものであり、また修道生活への召命の起源やこの召命に伴う生活条件とは非常に入りまたがら人は、それ以前になることがられたがられたの形魔をしたりはしないのです。

オプス・デイは小神学校や宣教師養成のための学校(*)をもっていません。し、もつべきでもありません。たしたちはそうした学校を愛したちば、それは他の人ちが、善さるのです。それは母親たちが、善まるのですなる原望に駆られててる場別にあるです、特に恵まれた環境で生活することによって、息子たちの中

に司祭の召命や修道者の召命が芽生 えるかどうかを確かめようと。

*訳者付記:escuelas apostólicas — Trésor de la langue française (フランスの仏語大辞典) によると、escuela apostólica に対応するフランス語「école apostolique」には「将来、宣教地に派遣する司祭を養成するための無償の中等教育機関」というような説明がある。

オプス・デイに入ることを望む者たちは 一 すでに十分な年齢に達していますから 一 オプス・デイへの召命が意味する自己の贈与について、自分たちが実行しなければならない特別な使徒職の使命について、明確な自覚をもってそうするのです。

彼らは、冷静かつ自由に考えたうえで、オプス・デイに入ることを望むのです。よく考え、責任を持って、イエスと言うのもノーと言うのも自由なのだと自覚し、オプス・デイ特

有の召命を受け入れることによって 負うことになる義務についても理解 したあと、この決断を下すのです。

神の呼びかけに応える自由

39 神からのこの特別な召命をほんとうに持っている者だけが、完全な自由の中で自らを捧げ堅忍しようととむる者だけがオプス・デイに来るとということについて、わたしたち以上の関心を持つ者はいません。まさにしてあるが神の恵みに助けられて力を発揮するであろうということの、最高の保証があるからです。

それと同時に、あなたたちもよく 知っているように、神学校や修道会 のために多くの召命が生まれること を喜びをもって見ることも、わたし たちの精神にふさわしいことです。 しかも、わたしたちは神に感謝しま す、なぜなら、これらの召命の多く は、わたしたちが若者のあいだで 行っている霊的・教義的形成の成果 だからです。わたしたちを取り巻く 環境を、キリスト教の精神で燃え立 たせ、より超自然的で、より使徒的 なものにすることによって、その論 理的帰結として、教会のあらゆる組 織に、より多くの人々が送り込まれ るのです。

40 修道者への召命については、わたしたちは特別に注意を払っています。オプス・デイの創立当初から、わたしはオプス・デイという組織を、そのメンバーは修道者となるとも、ad instar religiosorum [修道者のように] 修道者のように生きることも、修道者と同一視されるようなこともあってはならないものとして見てきました。

それは、修道者に対する愛情が欠如 しているためではありません。わた しは心から彼らを愛し、尊敬してい ます。わたしの子どもたち、それ は、フィリピの信徒たちに対する聖パウロと同じ言葉を、誠心誠意、繰り返すことができるほどですーtestis enim mihi est Deus, quomodo cupiam omnes vos in visceribus lesu Christi [キリスト・イエスの心をもって、わたしがどれほどあなたたち一同に想いを寄せているかは、神が証人です] [80]、イエスがどれほどあなたたちを愛しているがどれほどあなたたちを愛しているかは、神が証人です。

わたしたちは、司祭への召命、修道 者への召命を、そして修道者たちが 教会のために行ってきた、またこれ から行うであろう巨大な仕事を、心 から尊敬しています。そう思わない ような者はわたしの善い息子とは言 えないでしょう。

しかし、それと同時に、改めて言いますが、わたしたちの召命とわたしたちの仕事は — 世俗にとどまるよ

うにとの招きであり、また、わたしたちの使徒的活動は世俗の活動**の中で、またそこから**行われるものであるのですから一、修道者に託された召命と仕事とはまったく異なるものなのです。

41 あなたたちは、自分の社会的身分を変えず、修道者あるいは修道者と同一視されるような人にはならず、そして、神の民である他の信者たち、つまりあなたたちと同等な人たちと、生活や仕事において完全にとだわりながら、この世のただ中にとどわらながら、この世のただ中にとらを主にささげたのです。

わたしたちが行う仕事、わたしたちが採用する精神性と手段、わたしたちがそれを行う状況、そしてわたしたちのために用意されている特有の形成と修徳主義は、神学的・教会法的に見ても、修道者の身分にはないものです。

42 わたしたちの活動はまた、教会の通常の位階制の枠組みにおいて、あるいは修道会によって、多かれ少なかれ直接的に推進されている様々な団体や運動における他の一般信徒の活動とは、通常、全く異なっています。

これらの団体や運動は、使徒職に自己を全面的に捧げることを必びついた。 ことをがないないで、会員と団体のは弱く、ほとんど存在しない。修密では弱いないでででである。 は弱は事実上存在しません。修密ではおいりででであるとは言えないからです。 であるとは言えないからです。

たとえ、これらの点をすべて持っていたとしても、彼らには、仕事と使徒職との内的かつ完全な一致が、やはり欠けているのです。この一致こ

そが、オプス・デイのメンバーに特 有の召命と修徳的要請の基本的な特 徴であり、その実際上の結果とし て、オプス・デイもそのメンバー も、誰からのものであれ、人のお金 を必要としていません。なぜなら、 メンバーたちはそれぞれの仕事に よって得た実りをもって自分たちの 必要を賄っているからです。たと え、もう一方で、わたしたちが行っ ている使徒的事業は、それが適切に 発展するためには、カトリック信者 であるか否かを問わず、祈り、仕 事、あるいはお金によって支援して くれる人々の、寛大な協力を常に必 要としているとしてもです。

43 ここまで来たところで思うのですが、わたしたちの道を理解しようとしない、あるいは理解できずにいる人たちの態度を — それを正当化するのではなく — 説明することができる理由について、具体的に示す必要があるようです。多少否定的なや

り方になるかもしれませんが、わた したちの霊性と使徒職を明確に定義 するものが、それによってより明確 になるでしょう。

人工的なものを称賛し、奇抜なもの や偽りのものを喜び、貴重で本物の 美しさを無視することに馴染んでい る人たちには、花は自然の花でない 方が美しいと思えるのでしょう。み ずみずしく香り高いバラを**ほめる**の に、なんてきれいなんだ、まるで造 花のようだ、などと言うのを聞いた ことがあるでしょう。そういう人た ちには、使徒的な事業の内に、神の 恵み、神の日常的な摂理、そして人 間の直墊で高貴な什事の、驚くべき ではありますが簡素な実りを見出す のは、容易ではないのでしょう。

そのひとたちが、鳴り物入りの見世物のような — 打ち上げ花火のような — 仕方で仕事をするのに慣れているとしたら、そのような心的態度

が何世紀も続いてきたために、独特 な意識、考え方が身についているの かもしれず、その結果、他の人たり が、見た目を飾ることも秘密めつ こともせずに、まったく単純かつ自 然に、率直に、したがって謙遜にる 動しているのを見ても、理解するで す。

44 このような人々が表面的で、もの ごとを曲解しがちなのは、軽率さや 思慮のなさから、ある特定の召命に とっては正当な意味があるけれど も、キリスト教的完全さを真に探求 することにおいて不可欠ではない要 素 一 たとえば、衣服の色や形、長 く厳粛な儀式、紐や帯、肩紐で吊り 下げるか首から下げるキリストの十 字架像、はっきりと見えるメダイな どといった、ある種の階級意識には 付き物となりがちなしるし、教会が 再三嘆いてきたしるし ― を最重要 視するためです。このような人々

は、これらの伝統的な要素のいずれかがまったくないことに気づくと、 聖性へと向かう本物の道があること さえ疑うようになるのです。

わたしの子どもたち、わたしたちの場合、そうしたしるしは何一つありません。オプス・デイを示す略号さえありませんし、またあってはならないのです。なぜなら、わたしたちは修道者の身分とは何の関係もないからです。わたしたちは普通の市民と同じだからです。

もしも彼らが、まじめで**専門的な**仕事、世俗の学問への完全な**自己奉献**が何を意味するかを知らないのなら、神がオプス・デイのメンバーに求めておられる使徒的な仕事の範囲と規模、そしてそれを実行する方法を理解することはできないでしょう。

もしも彼らが、教会を自分の虚栄心 のために利用したり、無闇矢鱈と命 令し、押しつけ、すべてを牛耳ろうとすることを習いとしているのなら、自分の支配欲に制限が設けられるような仕事は必ずや敵視するでしょう。そのような仕事は、自分の権威を侵害するもの、おそらくは経済的利益をも侵害するものと見て取るからです。

45 また、わたしの子どもたち、それは驚くべきことでもありません。残念なことですが、今述べたような人々の周りには自然と取り巻きたちが集まってきて、うたい文句に惹かれたり — それに耳を貸してはいけません、神の働きや教会の活力を制限し、操作するものだからです一誤謬や教理的知識の欠如からくる偏見に惑わされて、言いなりに動くのです。

今わたしが問題にしている人たち は、まじめな人たちではあります が、オプス・デイが示す高貴な望み

46 わたしの娘たち、息子たち、そんなことはどうでもいいのです。わたしがこれらの困難についてあえて触れたのは、そのことによって一逆に一わたしたちの精神の特徴をより明確に示すのに役立つからにほかなりません。それ以外のことについては、父なる神への子としての信頼をもって祈り、皆を赦し、希望を持って待つのです。

祈ってください。わたしの絶え間ない祈りに結ばれていてください — Domine, Deus salutis meae: inclina aurem tuam ad precem meam [主よ、わたしの救いの神よ、わたしの救いの神よ、わたしの抗りに耳を傾けてください] [81]、わたしともに言ってください、わたしたちの救い主である神よ、わたしたちの祈りに耳を傾けてください。山々のあいだに水は流れるという深

い確信が、あなたたちに欠けることが決してありませんように、inter medium montium pertransibunt aquae [山々のあいだに水は流れる] [82]、水は流れる、これは神の言葉です。

それはそうと、わたしが少し前にブ ルハソット(*)で、キリスト者とし ての生活を高めようとしている学生 たちに ― そのうちの何人かはすで にわたしの子どもになっていますが 一 数日間説教をしたときに得た招き を実践する決心をしてください、わ たしもそうしますから。あるドアに 「旅人よ、己が道を行け」という言 葉が書かれていて、わたしは喜んで それを何度も読み返しました。これ こそ、わたしたちがなすべきことで す、わたしたちの主である神がわた したちを引き寄せてくださった特有 の道をよく知り、その道を忠実に歩 み続けるよう、常に努力すべきこと なのです。

* [訳注] スペイン、バレンシア地方 の町。

わたしたちの仕事は偉大なカテケー ジス

47 わたしたちの召命についての理解を深め、わたしたち独自の方法で高いたち独自の方法である。 かんしたち独自に伝えることではなられたちでで、はないでは、まって、からに生きによって、からによって、からないでは、生き生れるとは明らかです。

実際、この教理的使徒職は本当に必要とされているのです。古くからキリスト教の伝統を持つ社会集団や国々においてさえも、宗教的無知が日に日に増しているからです。神の最大の敵は無知であると言えるでしょう。神を知らなければ神を愛す

ることはできません。だから無知は 多くの悪の源であり、魂の救いに とって大きな障害となるのです。

「わたしたちは聖霊があることを聞いたことさえありません」「BSIと聖書がわたしたちに伝えていることは者の人々、多くのキリスト信とされての人々、多くの知識が欠けて出ての人々、教理的のままが欠けて出して出ている。それはでない人だけでない人だけでない人だけではで学識者と言われている人だけですではでいる人だけです。 門家との要職にある人にさえ言えるとなのです。

そして、無知は混乱を生み、さらに、教会の敵や軽率な人々がその混乱をあおるのです。口頭や文書による、ありとあらゆる伝達手段 一迅速に隅々にまで行き渡る手段 一を使い、無害に見えるけれども誤りを

含んでいたり、誤りにつながるよう な計画、発言、慣習を利用して。

48 病気の人や貧しい人を助けることが物的な慈善行為であるのと同じように、教理的知識に乏しい人を助けることも慈善行為です。そうした慈善行為、霊的愛徳を、わたしたちは、それが必要とされるとき、全力でなすべきなのです。

豊富な善で悪を溺れさせるために、教理を教えねばなりません。真理は贅沢品であってはならないの確かを信者たちに正しい教義、信者たちに正しい教義、信仰の確かが信仰いも東として示すな信をもってものであるという確信をもってもなければなりません。つまながら。

わたしの子どもたち、種を蒔くので す、明快に、曖昧にならぬように。 実践的懐疑主義がまかり通るような。 真とを許してはならないからです。 真理は一つですから。**言葉の賜物**に とって一聖霊降臨に喜んで触れないまって一聖霊降臨に喜んで触れないますが一、常にその場の状況や聞くがますが一、や知識に応じて話する人の能力や知識に応じていまするにしてくれるこの賜物、話すとする信仰と愛の実りであるのです。 の賜物によるのです。 まるなまするにはないまするにはないまるのです。 の賜物によるのです。

49 自分の知識を絶えず向上させたいというあなたたちの願い、学びたいという願いに応え、オプス・デイは、それぞれの個人的な状況に虜して必要と教理と倫理、聖書と典確なながら、教理と倫理、聖書と正正確なとながらの歴史と教会法に関することによることによることによることによることによるのでするとによるのです。

しかし、あなたたちはまた、専門職 に応じた適切な準備をすべきできる 社会におけるそれぞれの活動に応じ た準備、知的労働であれ肉体労働で あれ、それぞれの公的な職務に応じ あれ、それぞれの公的な職務にによる た準備をしっかりとすることを て、自分の職業、日常の仕事を て、この教理の使徒職を効果的に て、この教理の使徒職を効果的に することができるようになるからで す。

仕事を聖化することは、人間的にも 完全な仕方でその仕事を行わなけれ ば、難しいでしょう。そして、専門 がなければ、専門 に携わる者としての威信 — 仕事を 聖化し、キリスト教の信仰がささせる ところに自分の生活を一致させる ことを他の人たちに教えるため 要な影響力 — を得ることは難し い、で しょう。 50 ですから、しっかりとした職業訓練を受け、常に最新の状態を維持するために、あらゆる手段を講じなければなりません。わたしたちは、他の市民と同じ権利と手段を持っていますから、知的労働のためであれ、良い教育してくれる、公立あるいは私立の教育機関に通うのです。

学者になれる人が学者にならないとしたら、それは許されないことです。しかし、全員が学者になるプはありません。その代わり、オプをはありません。その代わり、教育を受け、自分の専門職において有能であり、その誠実な人柄、学識、技量のえに同僚たちから評価されていることが必要なのです。

51 Coepit lesus facere et docere [イエスは行い、教え始められた] 『87]、イエスは行い、教え始められ た。わたしの子どもたち、模範を示 して教えなければなりません。人々はあなたたちの善い行い「BSIや振るで振るでしょう。良かないることを信じるでしょす。しか、オグスを惹きつけます。しか、オグスをあるためには、単純のメンバーたちが教えている方をしていることの結果ではならないのです。

ることを通じて、はっきりと示されるのです。

このように模範を示すのですから、 遠くから見る限り、オプとはないることはないがしが注目されることはンバーが注目されるとメンにません。はません。接近とは、するは、ないないでしょうでしょうでしょうでしょうでしないでもしい香り」を見ば、このでわしい香り、ままに香りでからです。

キリスト教の光

52 オプス・デイのメンバーは、それぞれが自分の場所、自分の仕事場で、誠実に、ごまかしも策略もなしに、人々が、周囲の世界が期待しているキリスト教の光を示さなければなりません。わたしたちは人々のた

めに、周囲の世界のために存在しているのですから。

わたしたちの仕草、眼差し、話し 方、物の見方、行い方、人との見方、行い方、全般的に言うなところを 子でイのメンバーの生活るととである。 全体に、他の人の単純さが伴むるありません。 から生まれるのがと誤解されるは違うのだとは違うのだとは違うのだとは解されるははなれば、わたしなるとになれば、わたもしたちの世界にも人なでしまり、魂に仕えることがでしょう。

53 このようにして、教会は、人間のあらゆる営みの中に、真に、無理なく存在するようになるのです。修道者ではなく、修道者らしくもない、教会の普通の信徒である娘たち息子たちの個人的な証しが、キリスト教のメッセージを生き生きと、効果的に伝えることになるのです。

これは、自分の仕事によって生活している人たちが、一般信徒としてのメンタリティーでもって行う模範の使徒職であり、したがって、教会にとって経済的な負担にはなりません。彼らは、いかなる種類の人間的な報酬や補償も期待せず、惜しみなく教会に奉仕しているのです。

あなたたちは、市民であり良き職業 人であることを拠り所とする者とし て、誠実かつ公正に生き、働かねば なりません。カトリシズムや聖人の 名前、あるいは**カトリック**という肩 書に頼らずに。そして、キリスト教 は否定的内向的な宗教ではなく、世 界のどんな場所にあっても喜びを もって肯定的に物事をとらえる宗教 であると深く確信している人の超自 然的な喜びと人間的な楽観主義を 持って、生き、働くのです。キリス ト教は、地上の生活におけるあらゆ る高貴な願いに確固たる基盤と確実

な進展を与えることができる唯一の 教えなのです。

54 この率直で効果的な献身による模範を支えとし一 それは父なる神との絶え間ない交わり、聖母マリアへの信頼に満ちた崇敬、教会とローマ教皇への愛、祈りと犠牲によって可能になり、育まれるものですー、あなたたちは、職場の同僚や、何らあなたたちは、職場の同僚や、何で接することになるすべいがありません。

わたしの娘たち、息子たち、もちろんあなたたちはそのように行動して くれるでしょう。友情を、社会に 透するための戦術として用いるため ではなく — そんなことをしたらて 情がもつ本質的な価値を失わせう人 間が真っ先に、最も直接的に求な違い を持つ人々のあいだに育むのです。 それは、キリスト者にとって義務で すから。

そして同時に、神への愛からそうしてください。友情は信頼を生みますから、教理の使徒職を行うことができるようになり、わたしたちが善を望んでいるその人たち、友人たちを、主に近づけることができるのです。

55 夜、イエスに会いに行ったニコデモのように[50]、人々の無遠慮な好奇心にさらされないようにしながら、この控えめでまっすぐな友情の内に、人間的な敬意を乗り越えて、魂が熱望する神の真理を見いだす手段を求めようとする人たちさえいることでしょう。

わたしの魂の子どもたち、本当にこう言うことができるのです、オプス・デイの働きの最良の実りは、そのメンバーが、大学や工場、職場、鉱山や畑などで、仕事上の仲間たち

を相手に、模範と忠実な友情の使徒 職を「個人的に」行うこと通じて得 られるものである、と。

それは、謙遜に、静かに、しかし効果的に、絶え間なく続けられる、放射線のような働き、模範と教理による働きであって、その成果を統計で示すことは難しいでしょう。

56 わたしたちの神的な召命、職業の実践と密接に結びついているこの人を理解しないを理解しないを理解しない。 あるいは 一部であるいは 一部であるが はばなの 使徒 である ためにばなの 使徒 である ためにばなの 使徒 である ためにばなの 使徒 である ためにが よって がまって しょう でいまったく同じなのですから。

実際、オプス・デイのメンバーは、 それぞれの職業に応じて、その社会 的地位にふさわしい生活、服装、働き方をしています。ですから、他の市民と同じように、自分の置かれていますることや状況に無理がであることや状況に振る舞り、誠実かつ率直に振るサービスをである。 信者と同じように、オプスイにるである。 に、振る舞うのです。

57 ですから、自分の個性や身分を隠したりはしませんし、ありのままの自分の姿、自分の自然な姿にそぐわない、ある特定の外見を取り入れたりもしません。使徒職の戦術としてそのように行動することも、不必要なカムフラージュを取り入れることもないのです。

そのような奇行や偽善はオプス・デイではありえないことです。しかし、いずれにせよ、そうしたことは、一般信徒のふりをしたり、修道者でないように見せるために自ら一

般信徒化しようとする人たちにとっては、おそらく使徒職の戦術とうって、あり得ることでしょう。それなり得ることが知って、大たちをわたしは知る危険ないないないないないです。知るのですることが常にすることが常にすることが常にあるのです。

58 「天の神を賛美し、生きとし生けるものの前で神をほめたたえなさい。神はあなたたちにそのい秘である。王だから。王だがないことはもいことだがららったものはいことがある」「町」。わたしはものしい。自発的な行動や振る舞いを秘であるようなことは、誰にもの自発的な方数と混ってす。

これまでわたしは秘密を持たなかっ たし、今もこれからも、持つことは ありません。オプス・デイもそうで す、秘密を持つことは正しくないこ とですし、創立者であるわたしがそ れを知らないのも正しくないことで す。オプス・デイにとって、秘密は 何の役にも立ちません。これまでも 必要なかったし、今も、これから も、必要ありません。神がわたした ちに託された宝、わたしたちが伝え るべき光は**声高に叫ぶべき秘密**で す。わたしたちの義務、神から与え られた使命は、それを四方八方に広 めることなのです。

自然さと、個人としてまた集団とし ての謙遜

59 しかし、この単純で自然なわたしたちの召命の生き方は、使徒職の有効性、そして何よりも個人としてまた集団としての謙遜が求める、賢明で超自然的な慎み深さと、完全に一

致することを忘れないでください。 とくに今は、オプス・デイが始まっ て間もないとき、細心の注意が必要 な時期なのです。

わたしたち個人が神への献身の内に かもしだす親密さ、わたしたちの 族的生活がかもしだす親密ははあい で公言するようなものではあるしたちの で心し、わたしたちの扉を叩きな る詮索好きな訪問者の攻撃的なもの を満足させるためのものであると ません。わたしたちは素直であると 同時に慎重でもあるべきなのです。

60 わたしの子どもたち、聖パウロのこの明確で素晴らしい言葉を黙想してください。「わたしたちの誇りは、わたしたちの良心が証しするところです。わたしたちはこの世において、神の前で単純な心で誠実に振る舞ってきました」「927。これがオプス・デイの誇りです、そしてこれが、わたしたち一人ひとりが、どの

ような状況や境遇に置かれていて も、生きようと努めるべきことなの です。

わたしたちの精神の単純さと自然な 誠実さは、あなたたちが神との交わ りにおいて、神の子らしく単純かつ 誠実であろうと努めるなら、自分の 考えや言葉、行いを「真理である 方」に一致させようと絶えず努める なら、この世において、人々の前に 輝くことでしょう。

61 また、オプス・デイにおいてあなたたちを指導し形成する使命を持つのメンバーたちに対しても、誠実かつ単純でありなさい。彼らが愛情を持って、確固として、理解を示しまがら、効果的にあなたたちを導き、助けられるようになるためです。細やかな心を持って誠実に、しかしまた野蛮なほど誠実に。

あなたたちへの指導がしやすくなる ようなことがあれば、何でも恐れず に言いなさい。あなたたちを神へと 導き、霊性を高め、形成を進め、ど んな傷もすぐに癒し、どんな逸脱も ーいかに重大なものであれ、すぐら見えるものであれーす。ことだということを。 に言いなさい。 はそう見えるものであれーす。ことにするためです。 に重大なものであれっす。 に重大なこれです。ということを。

要するに、わたしたちの家族としての生活における誠実さです。自発的で開かれた態度は、あなたたち相互の関係を、暖かで心が通い合うものにし、必要な場合には兄弟的説諭を含め、常に助け合えるようにするための、非常に効果的な方法なのです。

平和と一致を促進する

62 オプス・デイの使徒職は — まさに真の兄弟愛が染み込んでいるがゆえに — 相互理解を促進し、平和と

穏やかな共存の雰囲気をわたしたちの周囲につくり出し、そうやって人間同士の一致、主との一致を阻む障害を — いまだに数多くある障害を — 取り除くことを目指さなければなりません。

ですから、キリスト教的世界観、人 間観、キリスト教的行動規範を制限 し、偏狭さや自己中心的なものへと 矮小化させるものは、オプス・デイ の精神とは無縁のものです。わたし たちは、コリントの信徒に対する聖 パウロの教えを、教会の一致、すな わち全人類の一致の象徴として、自 分たちのものとするのです。「実 に、わたしたちは、ユダヤ人であれ ギリシア人であれ、奴隷であれ自由 な身分の者であれ、洗礼を受けてみ な一つの霊によって一つの体に組み 入れられ、また、みな一つの霊を飲 ませていただいたのです | 1931。

63 オプス・デイのこの真にカトリック的な精神は、わたしたちに、広い、普遍的な心を持つよう求めています。わたしたちの心からたくさんの善いものを取り出す — de bono thesauro profert bona [善いものを入れた倉から善い物を取り出す] [94] — ことができる心を持つことによって、神の子としての兄弟愛の道をふさいでいる多くの精神的・心理的障壁を乗り越え、打ち砕くために。

その障壁のひとつ — おそらく今の 時代において最も危険な障壁 — は、ナショナリズムです。ナショナ リズムは、理解と共存を妨げ、祖国 への真の愛とは相容れず、人類社会 の共通善を追求するうえで、大きな 障害となります。

このナショナリズムが神にかかわる 事柄に持ち込まれたりすれば、この 上なく深刻かつ危険な事態を招くこ とになるでしょう。神にかかわる事 柄において、なによりもまず輝くべきことは、すべてのもの、すべての 人が、イエス・キリストの愛の内に 一つになることなのですから[95]。

64 キリスト教的愛におけるこの一致という現実は、人間社会の全領域において、行いを通じて示されるべきもので、階級意識、ましてやカースト主義を許すものではありません。「もはやユダヤ人もギリントもなく、奴隷や自由な身分のおより、男もなく、男もありません。あなたちはみな、キリスト・イエスにおいて一つだからです」「95」。

この一致を達成し、永続させることは、困難な仕事です。それは、謙 遜、放棄、沈黙、耳を傾け理解しようとすること、隣人の善に寛大に心を寄せること、必要であれば何度でもゆるすこと、要するに、行いを通して真に愛することによって養われるものです。 わたしたちは、この大いなるキリスト教的使命に、決然と、使徒的努力をもって貢献するのです。オプス・デイに近づくすべての人が、この一致のため、共存と人間的・霊的・物的幸福につながる相互理解のために働くよう促されていると感じるようにするのです。

65 教会においても市民社会において も、二級信徒も二級市民も存在しま せん。使徒職においても、現世的な 領域においても、神の子の自由、また正当なイニシの自由、また正当な不 に制限を加えることは恣意的限は、 当なことです。そのような制限です。 権威の乱用、無知、あるいは理不考え な差別をすることが許されるとえる人々の誤りから生じるのです。

そのような行為は、人間の尊厳に反するがゆえに、不当であり、自然に 反するものです。それは、良心に 従って行動する権利、働く権利、団 結する権利、自然法の範囲内で自由 に生きる権利を抑圧するものですか ら、共存への道には決してなりえま せん。

わたしたちの精神はすべての人を尊 重するよう促す

66 わたしの娘たち、息子たち、わたしたちはすべての人と平和的に働きたいのです。なぜならわた世性の大きの瞬間から理性的のである人間に与えた尊厳ととするとのであるが、尊重し、擁護自身が人間の本とをかられない。とることをは人間となり、わたしたのであります。

ですからわたしたちは、すべての人と親しく接するよう努めるのです。 キリストが関心を持たなかった人は 一人もいませんでしたから、わたし たちにとっても関心を持たない人は 一人もいないのです。だからわたし たちは、単なる社会的慣習を越え た、人間としての細やかな心遣いを もって人と接するのです。なぜなら それは、わたしたちの信仰そのもの を表すものだからです。

これがオプス・デイの精神ですから、多くの非カトリック信者、さらには非キリスト教徒たちの心を引き付け、支援を集めねばならないことが、よくわかるでしょう。あなたたちは、その人たちと同じ場所で共に生き、働くのです、同僚として、真の友として。

67 真理と愛の内に歩みましょう。教会にゆだねられた信仰の遺産(*)への忠実、教導職への忠実をしっかりと守ることによって、わたしたちは真理の担い手となるのですーveritatem facientes in caritate [愛に基づいて真理を行い][98]、イエ

ス・キリストの愛をもって福音の教えを伝えるのです。

* [訳注] depósito de la fe 、ラテン 語Depositum Fidei: 聖書および聖 伝に含まれた啓示の総体のこと。教 皇ヨハネ・パウロ二世は使徒憲章

『Depositum Fidei(ゆだねられた信仰の遺産)』の冒頭で「ゆだねられた信仰の遺産を守ること、これこそ主がご自分の教会に与えられ、また教会がいつの時代にも果たしている使命です」と述べている。この使徒憲章は日本語版『カトリック教会のカテキズム』の冒頭(1 - 6ページ)に収められている。

妥協できないときであっても、その 非妥協性は聖なるものでなければな らず、従って、教理に関してはその 姿勢を貫くでしょうが、人々に対し てはそうであってはなりません。さ もないと、わたしたちは人々を神の もとに導くことができませんし、キ リスト者としてわたしたちに求められているように、兄弟として人々と 共に生きることさえできないでしょう。信仰にかかわることでは譲歩できませんが、真理を語るために人を 傷つける必要はないということを忘れてはならないのです。

もしも例外的に、相手が横暴で暴力的な場合には、強く言わざるを得ないでしょうが、そのときも、わたりたちの言葉が相手を傷つけないように一irascimini et nolite peccare [怒っても、罪を犯してはならても、罪を犯してはならても、厳しい話し方をしてもなられずに一なぜそのようにする必要があったかを説明しながら、ただちにその傷に愛の香油を塗り、手当をし、癒さなければなりません。

* [訳注] ラテン語に即して訳した。

68 どんな人に対しても、その人の自由を尊重すべきですが、見解が異な

る場合には、なおさら心にかけるべきです。残念なことに、人間には全体主義や専制、狂信へと向かるとなるとなって、議論するとなるとならしても自分のです。わたしたちりのです。というわたしたちのです。というわたしたちの姿するというわたしたちの姿があるというないません。

わたしはいつも以下のように考えて きましたし、あなたたちにも同じよ うに考え、他の人にも教えてほしい のです。主が多くの事柄を人間の自 由な討論に委ねられたのですから、 わたしと異なる考えを持つ人を、敵 と見なす必要がはたしてあるので しょうか。

同じ考えを持っていない人が相手 で、その人がわたしを納得させれ ば、わたしはその人の考えを受け入 れますし、わたしがその人を納得さ せれば、その人はわたしと同じように考えるでしょう。もしも二人とも相手を納得させられなかったとしても、わたしたちは互いに尊敬し、愛し合い、共に平和に生きることができるでしょう。

69 Tribue sermonem compositum in ore meo「わたしの口に適切な言葉 をお与えください][100]、わたしに反 論する人の前で、わたしの口に適切 な言葉を与えてください。激しい口 論 − 議論 − から光は生まれませ ん。感情がそれを妨げるからです。 だからわたしたちは、相手の言うこ とに耳を傾け、穏やかに話すように しなければなりません。ときには自 分を抑える努力が必要となるでしょ うが、超自然的理由からそのように 振る舞うのですから、それは価値あ ることなのです。

自分は完全に正しいと思っていて も、実際には部分的なとらえ方、不 完全なとらえ方でしかないことがあります。何かが、ある人にはへこんで見え、別の人には出はって見えたりしますが、それはその人の視点によるものです。だから、相手の意見を落ち着いて冷静に検討し、反論する人の立場になって考えるのが正しいのです。

70 神との友情 — わたしたちが培い、発展させなければならない最初の友情 — の内に生きることによって、あなたたちは多くの真の友にできるでしょう。わたるとができるでしたったらられるがらにしたちを御自分の道具としたちを御自分の過失ちにもから、他の多くの人たちを御らくのよう、他の多くのよう、と望んでおられるからです。

わたしの子どもたち、すでに話した ように、わたしは人間の友情を信じ て言います、amico fideli, nulla est comparatio [忠実な友に匹敵するものは何もない] [[102]、忠実な友に匹敵するものは何もありません。友情は宝であり、わたしたちはその大きな人間的価値を大切にし、人々を神のもとに導く手段として使わなければならないのです。

わたしはすべての人を友と感じてい ます。あなたたちにもそう感じてほ しいと思います。わたしたちは、誰 一人例外なくすべての人の善を求め ているのですから。ある人がどれほ ど主から遠く離れていても、どれほ ど敵意を示していても、わたしたち は聖アウグスティヌスとともに、こ う考えましょう。「わたしたちはそ の人の回心を絶望してはなりませ ん、なぜなら、公然と敵対している 人々の中にさえ、自分では知らずに いるが、友となるべく予定されてい る人たちが隠れているからです|

友情は信頼の雰囲気を生み出す

71 真の友は、友に対して二つの顔を 持つことはできません、vir duplex animo inconstans est in omnibus viis suis「そのような人は二心の人 であり、何事においても不安定な人 です〕「104」、二心を持つ偽りの人は、 すべてにおいて無定見な人です。友 情が忠実で誠実なものであるために は、自己放棄、公正さ、正当な事柄 においては進んで助け合い奉仕し合 うことが求められます。超自然的な 思慮深さに従い、個人的な犠牲を 払ってでも他者のことを寛大に考え る人であるなら、その人は強く誠実 な友と言えるでしょう。

わたしたちが友人に期待していることは、真の友情によって築かれた信頼の雰囲気に応えてくれることです。友人が、ありのままのわたしたちを認め、必要であれば、その場しのぎではない明確な支援を与えてく

72 確かに、人間に信頼するよりも神 に信頼する方が善いことです、 bonum est confidere in Domino. quam confidere in homine 「主に信 頼することは、人に信頼することよ りも善い」「105]。だからこそ、わたし はあなたたちに、まず神に信頼する だけでなく、兄弟たちにも信頼する よう頼んでいるのです。愛と理解を もって、常にあなたの周囲に安心の 種を蒔くのです、適切な慎重さを もって、しかし気前よく。そうやっ て人々に、あなたたちの広い心と愛 に応えなければ、いや応えずにはい られないと感じさせるのです。

それと同時に、良心の自由を尊重し愛しつつ、この信頼と友情の使徒職によって、イエス・キリストがあなたたちの人生に入ってこられたように、あなたたちも他の人たちの人生に入っていき、福音宣教に励むのです。たとえ話の中で、quia nemonos conduxit「誰もわたしたちを

雇ってくれなかったからです]「IDETと言った人たちのように、オプス・ディへの召命をもつ人が、誰一人として、「誰も何も言ってくれなかったからです」などと言い訳することがないように。

さらに、考えてください、わたした ちには、主が永遠の昔から用意して おられるすべての子どもたちを、わ たしたちの素晴らしい家族に迎え入 れる権利と義務があることを。それ は、この地上に人間がいる限り続く のです、イエス・キリストが、神に 飢え渇く多くの人たちを[107]御自分の ものとなさるために。

オプス・デイの生き方から法的な道 が生まれる

73 わたしの子どもたち、終わりにしましょう。この手紙の冒頭ですでに言っていたように、わたしの意図は、限りなく善である主、お使いになる道具の小ささを補ってくださる

主が、あなたたちのために、わたしに与えてくださった誠実で単純な精神のいくつかの要点を思い出してもらうこと、それに他なりません。わたしたちの父である神は、あなたたちがこの精神をよく学び、しっかりと自分のものとし、それを生きることを望んでおられます。

この生き方、オプス・デイの生き方 こそが、その時が来れば、必要な法 的道筋を開き、わたしたちが信頼し て待ち望んでいる法的枠組みが整え られるでしょう。オプス・デイのよ うに、地面から生え出た植物は、自 ら道を切り開かねばなりません、生 命という穏やかな力によって、庭師 に世話され守られながら。庭師 一 わたしたちの庭師である神 一 が、 根に栄養を与え、外気と日光の下 で、たくましく育ててくださるので す。

74 わたしたちの召命の非常に独自な特徴は、多くの神学的、修徳的、修徳的、名たの神学的、修徳の、名たの神学のでは、多さながいるを見ながいるでは、対して変更ながある。とがないます。というないないでは、からいでは、ないないでは、ないないでは、ないでに言ったとおりです。

しかし何よりも、神が教会の内につくり出されたこの(オプス・デは、修 が動きないのではの現実は、修 道生活固有の問題とは異なる問題と での提起の仕方を含めて一提起の しています。そして、わたしたい ではます。そして、わたしない人々には、 ではない人ないるように での問題は共通しているように は必ず異なるものとなるでしょう。 75 わたしたちは、神の業であるオプ ス・デイの超自然的性質を確信して いるので、わたしたちが生きている 精神に完全に対応する法的形態に至 らなければなりません。わたしたち は自分に合わない服を着ることはで きません。自分に合う服が必要なの です。自分を目立たせたいと思うか らではありません。それはただ単 に、わたしたちの内的生活を、さら には堅忍を保証するために不可欠な 条件であり、教会に仕えるオプス・ デイの真に霊的な有効性のためにも 不可欠な条件なのです。

このようにしてのみ、わたしたちは、わたしたちが受けた特有の召命に寛大かつ忠実に応えることができるのです。このようにしてのみ、のたしたちは、わたしたちの召命の手段と使徒的実践をもって、わたしたちと使徒的実践をもって、わたしたちに託された使命を果たすことができるのです。だから、あなたたち一人

ひとりに言います、「旅人よ、道はない。道は歩くことによってつくられるのだ」[108]。

このようにすれば、恐れから、わたしたちが教会で働く他の使徒的組織と「競争」していると考え、のたちでいるとも、のなり、またりにではいるとしたちは悩まされていまされたもの仕事ををしたが現れるではいるがでしたが明れるのですがあるとというとというというでは、からないの見事な一致と多様なものです。

76 わたしの子どもたち、天はオプス・デイが実現されることを約束しています。人間的な困難はありますーたとえば、スペインにおける3年間の内戦の痛ましい経験や、他の国や他の大陸へのオプス・デイの拡大

を脅かしているように見える新たな 世界大戦について考えてみてくださ い一、しかしそうした困難も、わ たしたちの超自然的な仕事の活力と 広がりを抑えることはできなかった し、今後もできないでしょう。

また、わたしたちが生きている絶対 的な貧困や、時には最も必要な人間 的手段の欠如も、障害や困難とみな すべきではありません。それどころ か、それらは強力な刺激であり、拍 車なのです。なぜなら、手段の欠り は、わたしたちが本当にキリストの 足跡をたどっていることを示す、も うひとつの外的証拠だからです。

ましてや、わたしたちの歩む道が理解されないという困難が、わたしたちの力強い歩みを止めたり弱めたりすることなど、ありえないでしょう。わたしたちは神の歩調で進んでいるのです。だから、教会と人々に仕えたいという、神に由来する聖な

る熱意を抑えることなど、誰にもで きないのです。

だから、あなたたちの信仰と神への信頼を強めなさい。そしてまた、信頼を強めなさい。そしは信じ、を少しは信がない。あなたたちがいると保証しまるといると保証しまるとのでいなかったしまるとことではなかったもの主の御心に従って歩んでいると。

77 主が聖パウロに言わせた言葉に耳を傾けてください。「以上のようなわけで、わたしたちは、神の憐れているのを強したってこの奉仕の務めを受けてまるのですから、気を落として大り、記がるようなですがして大り、言葉をゆがめず、真理を明らかにして、神の前ですべての人の良心の判断

に、わたしたち自身を進んで委ねています。

なお、わたしたちの福音に覆いが掛かっているとしたら、それは滅びる人々にとって覆いが掛かっているのです。彼らの場合、『この代の神』が信じない人たちの心の目を眩まして、神の似姿であるキリストの栄光に関する福音の光が、輝くことがないようにしているのです。

実に、わたしたちは自分自身を宣べ に、わたしたちは自分自身を宣べ にないるのではなく、インローであると宣れ であると宣れたちにしたちは、インのではなら、『書います。 であなたたちに借の中のです。 が輝き出るしたちの心の間に輝くれているのです。 は、オストラに、光を与えている。 光を悟らせるように、光を与えてがらです」 [100]。

78 ですから、わたしの魂の娘たち、 息子たち、祈りなさい、そして忠実 でありなさい — multum enim valet deprecatio iusti assidua [正しい人 の不断の祈りは大きな力があるから です〕「1110」 一祈りは大きな価値があ り、それはこれまでも、そしてこれ からもわたしたちの大きな武器とな るはずです。働きなさい、喜んで、 穏やかに、自信をもちながら、あな たたちの召命にふさわしく、オプ ス・デイの単純で誠実な精神で 一 filii lucis estis et filii diei [あなたた ちは光の子、真凮の子です】㎜、あ なたたちは皆、光の子、真昼の子で す。街の明るい光の中を、わたした ちは歩むのです、太陽の輝きの中 を

あなたたちのことを思い、忠実でありたいというあなたたちの願いを思うとき — わたしは絶えずあなたたちのことを思っています — 、あなたたちに聖書の言葉を繰り返す必要

を感じるのです。「わたしは、あなたたちに対してまったく打ち解けた思いでおり、あなたたちを大いに誇りに感じています。わたしは慰めに満たされており、どんな苦しみに遭っても、この上なく喜びに溢れているのです」[112]。

主はなんと善いお方でしょう、主はわたしたちを探し、この聖なる方法を一効果的に働くための方法を、自分の命を捨て、神の内にすべての被造物を愛し、人々の間に平和と喜びの種を蒔くための方法を一わたしたちに教えて下さったのです!イエスよ、あなたはなんと善い方なでしょう! lesu, lesu, esto mihi semper lesus! [イエス、イエス、いつもわたしのイエスでいてください!]

わたしの子どもたち、神に願います、この喜びと平和が、わたしたちの主イエス・キリストとの一致の内

に、そしてわたしたちの母である聖マリアとの一致の内に、いつもあなたたちと共にありますように。

あなたたちのパドレが、主におい て、あなたたちを祝福します。

マドリッド、1940年3月11日

- [1] エレミヤ10・10参照。
- [2] ローマ3・4参照。
- [3] ヨハネ14・6参照。
- [4] ガラテヤ4・19。
- [5] 聖ヨハネ・クリゾストモ『マタイ福音書講話』1・5。
- [6] 1ヨハネ3・2。
- [7] 創世記2・1参照。

- [8] 創世記1・31。
- [9] ガラテヤ4・5。
- [10] ローマ6・4-5参照。
- [11] エフェソ1・9-10参照。
- [12] コロサイ1・20参照。
- [13] エフェソ5・1。
- [14] 1ヨハネ3・1。
- [15] ヨハネ1・14参照。
- [16] ヨハネ1・4。
- [17] ヨハネ1・5参照。
- [18] ヨハネ1・5参照。
- [19] 1ヨハネ4・8参照。
- [20] ルカ12・49参照。
- [21] 1ヨハネ1・3-4。

- [22] 1コリント4・7。
- [23] 1ヨハネ1・8。
- [24] 1ヨハネ2・1-2。
- [25] エフェソ3・17-18。
- [26] 1ヨハネ2・6。
- [27] 1ヨハネ2・7-11。
- [28] ローマ5・5参照。
- [29] ヨハネ17・23。
- [30] ヨハネ 13・34。
- [31] 箴言18・19。 [訳注] ヴルガタ訳ラテン語聖書からの引用で、フランシスコ会訳聖書も新共同訳聖書もこれとは違う訳文となっている。
- <u>[32]</u> 2コリント5・14。
- [33] 1ヨハネ3・18参照。

- [34] 1ヨハネ4・20参照。
- [35] ヨハネ3・16参照。
- [36] □ マ8 · 14-17。
- [37] 詩編2・8。
- [38] 1コリント3・22-23。
- [39] マタイ5・14、16.
- [40] □-マ6·22。
- [41] レビ記6・2参照。
- [42] マタイ11・28。
- [43] 黙示録3・20。
- [44] 黙示録22·12。
- [45] マタイ11・12参照。
- [46] ルカ24・29参照。
- [47] ヨハネ17・22参照。

[48] ヨハネ17・11, 15-16。

[49] ヨハネ12・32。ー [訳注] 聖ホセ・マリアが使っていたヴルガタ訳ラテン語聖書では omnia traham ad meipsum [《すべて》をわたしのもとに引き寄せる] となっているが、新ヴルガタは omnes traham ad meipsum [《すべての人》をわたしのもとに引き寄せる] を採用し、邦訳聖書もこれと同じように訳している。

[50] 創世記2・15参照。

[51] マタイ5・48。

[52] サムエル上3・9。

[53] コロサイ3・23-24。

[54] ガラテヤ4・31。 - [訳注] ヴ ルガタ訳ラテン語聖書による。現行 の聖書ではガラテヤ5・1。

 $[55] ext{ } ext{$T$} ext{$T$}$

- [56] ヨハネ7・5。
- [57] ヨハネ16・30。
- [58] エフェン5・8。
- [59] 2□リント12・9。
- [60] テルトゥリアヌス『護教論』 50・3。
- [61] ヨハネ14・6。
- [62] マタイ16・24参照。
- [63] 1コリント7・7参照。
- [64] 1コリント5・6。
- <u>[65]</u> 1テサロニケ4・3。
- [66] ヨハネ17・23。
- <u>[67]</u> マタイ6・18。
- [68] $/ #743 \cdot 1.$

- [69] 詩編19 [18] · 6-7。
- [70] 詩編77 [76] ・15。
- [71] ヤコブ1・16-17。
- [72] エゼキエル1・14。
- [73] 雅歌7・13。 [訳注] ヴルガ タ訳ラテン語聖書による。現行の聖 書では雅歌7・14。
- [74] マタイ13・52。
- [75] ヨハネ3・8。 [訳注] ラテン語spiritusには「風、息、霊、精神」などの意味がある。
- [76] 詩編 25 [24] · 3。
- [77] 詩編103 [102] ・5。
- [78] 詩編 96 [95] ・1。

[79] 聖ユスティノス『キリスト教についての弁明』I、14 (SC 507, p. 162-165)。

[80] フィリピ1・8。

[81] 詩編88 [87] ・2 - 3

[82] 詩編104 [103] ・10。

[83] 使徒言行録19・2。

[84] マタイ11・25参照。

[85] 使徒言行録2·4-6参照。

[86] ヨハネ7・38参照。

[87] 使徒言行録1・1。

[88] 2ペトロ1・10。― [訳注] 邦 訳聖書には「善い行い(によっ て)」という言葉が欠けている。

<u>[89]</u> 2コリント2・15。

[90] ヨハネ3・1-3参照。

- [91] トビト記12・6-7。 [訳注] ヴルガタ訳ラテン語聖書をふまえた スペイン語が記されているので、それに即して訳した。
- [92] 2コリント1・12。 「訳注」引用されたスペイン語テキストに即して訳した。
- [93] 1コリント12・13。
- [94] マタイ12・35。
- [95] 1コリント10・17参照。
- [96] ガラテヤ3・28。
- [97] ヨハネ1・14参照。
- [98] エフェソ4・15参照。
- [99] 詩編4·5。
- [100] エステル記14・13。 [訳注] ヴルガタ訳ラテン語聖書による。

- [101] シラ書6・17。
- [102] シラ書6・15。
- [103] 聖アウグスティヌス『神の 国』第1巻第35章。
- [104] ヤコブ1・8。
- [105] 詩編 118 [117] ・8。
- [106] マタイ20・7。
- [107] ヨハネ6・35参照。
- [108] Antonio MACHADO, Campos de Castilla, "Proverbios y cantares" XXIX.
- [109] 2コリント4・1-6。
- [110] ヤコブ5・16。
- [111] 1テサロニケ5・5。
- [112] 2コリント7・4。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/tegami6/ (2025/11/27)